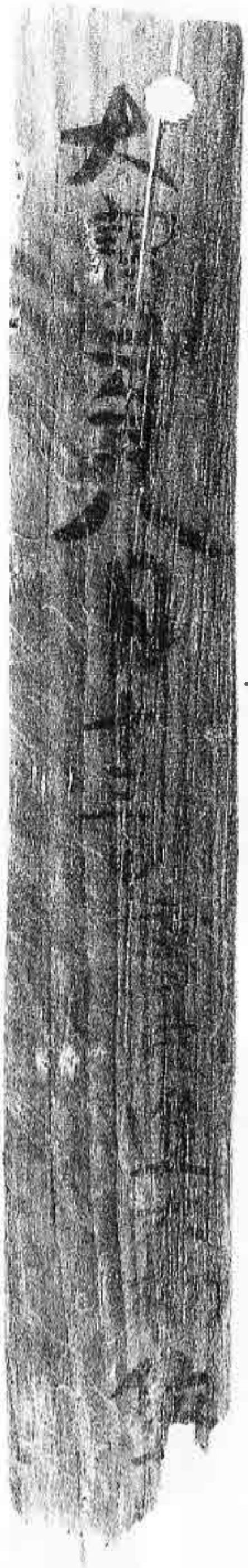


二〇〇二年十二月

飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報
(六)

奈良文化財研究所



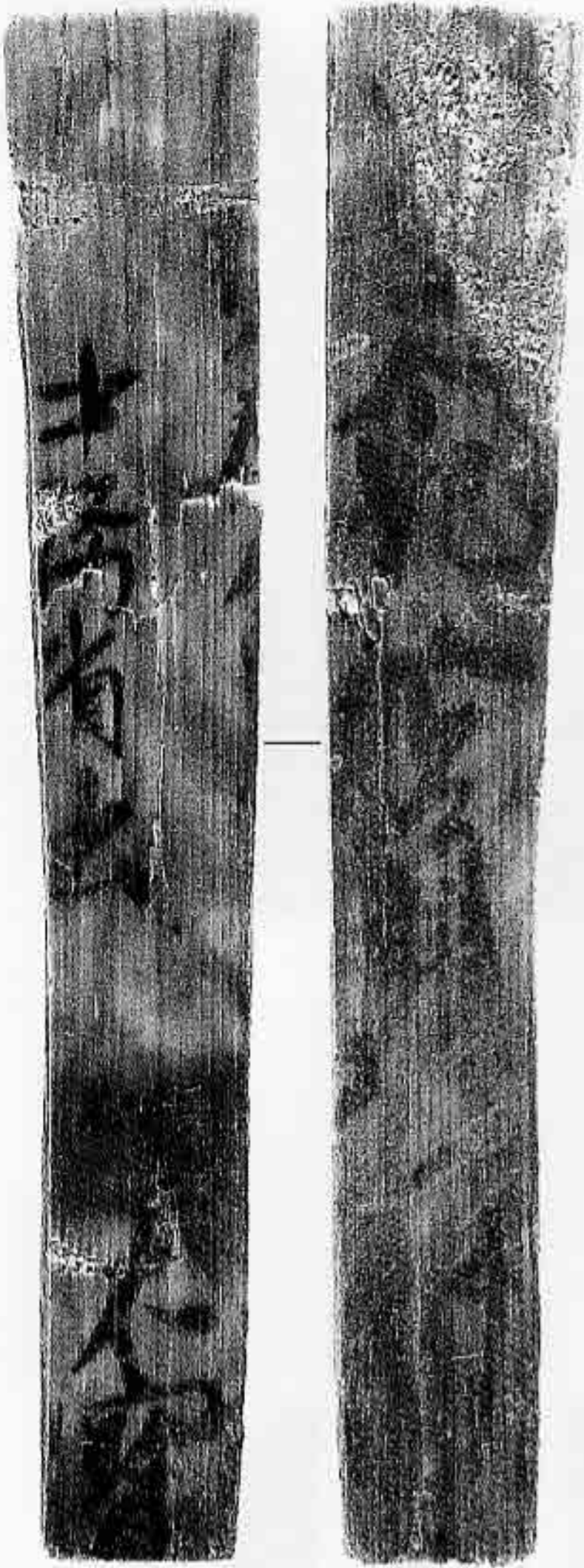
3



1



2



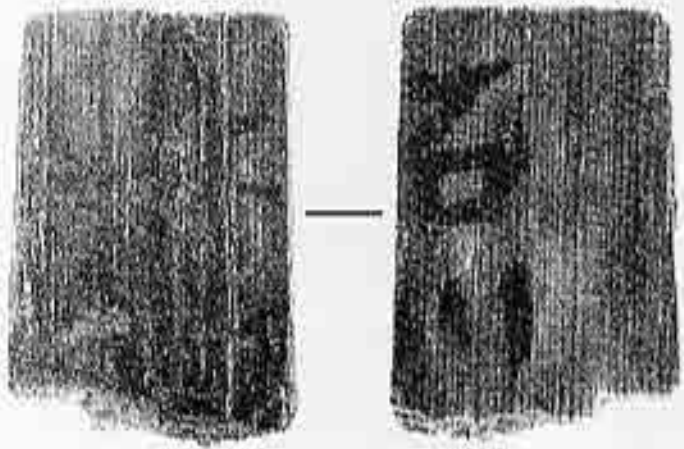
10



8



6



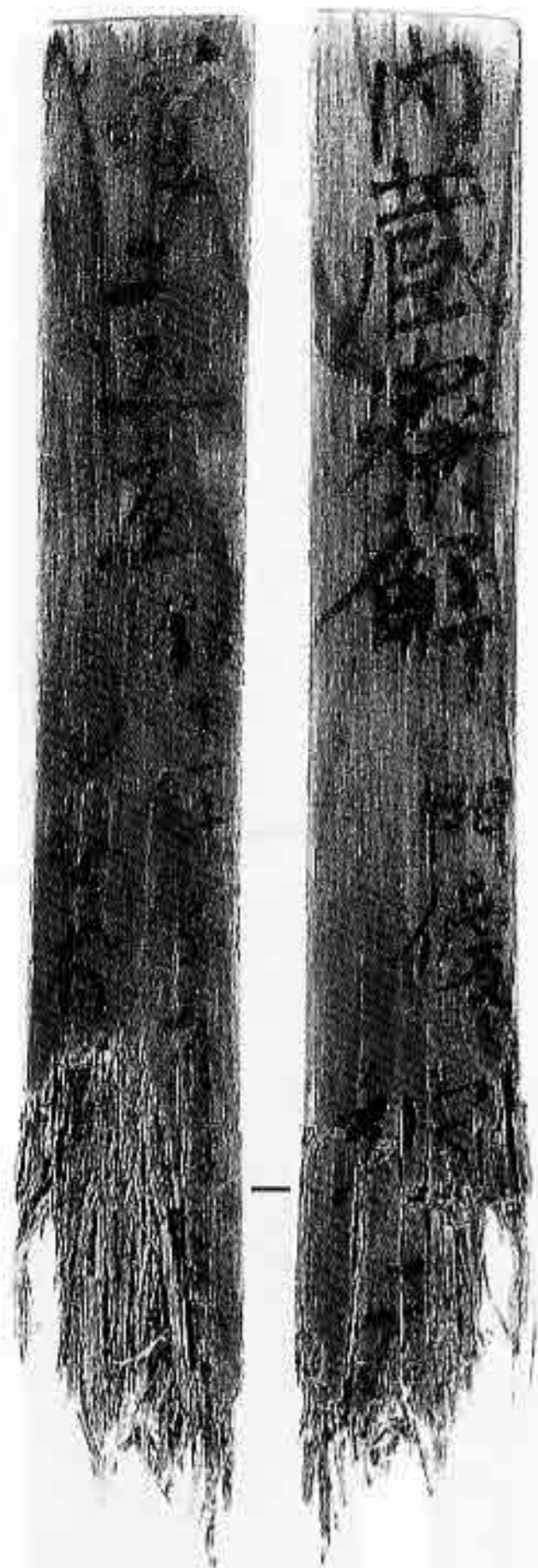
4



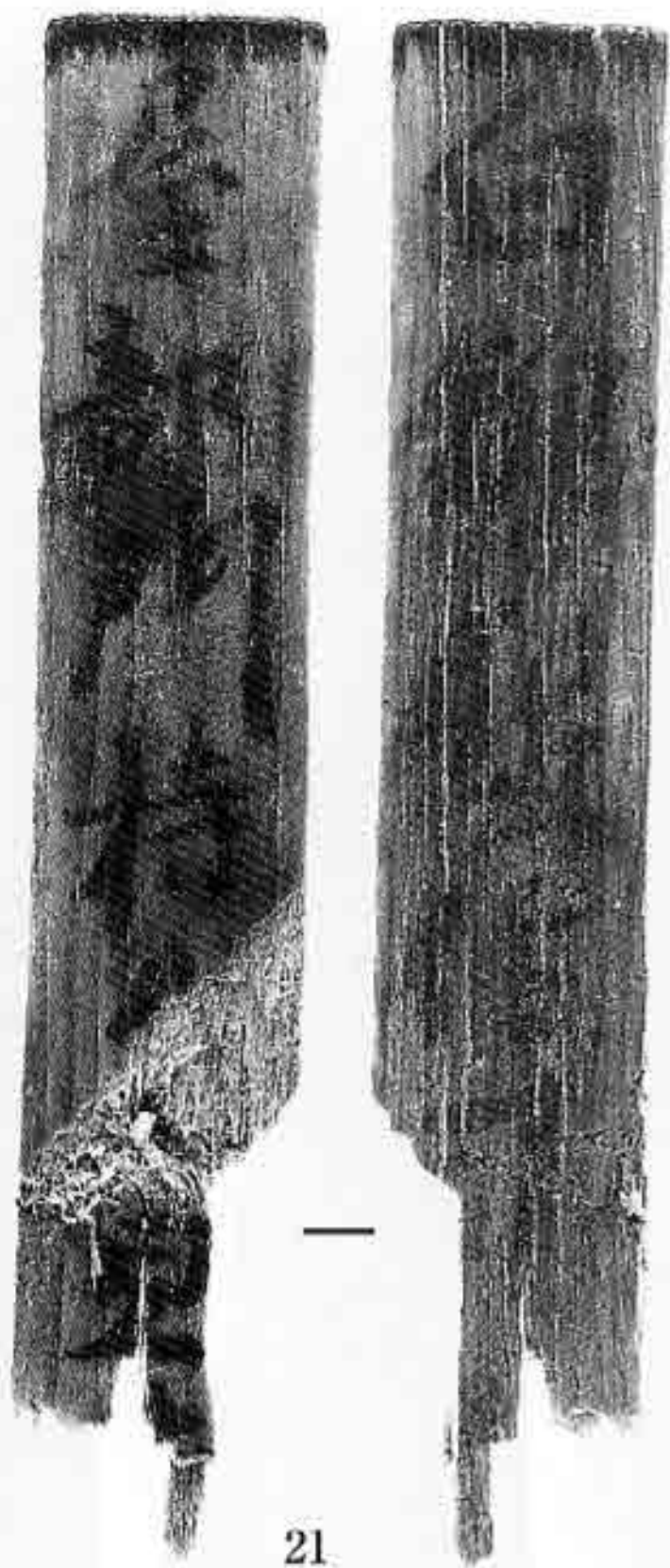
9



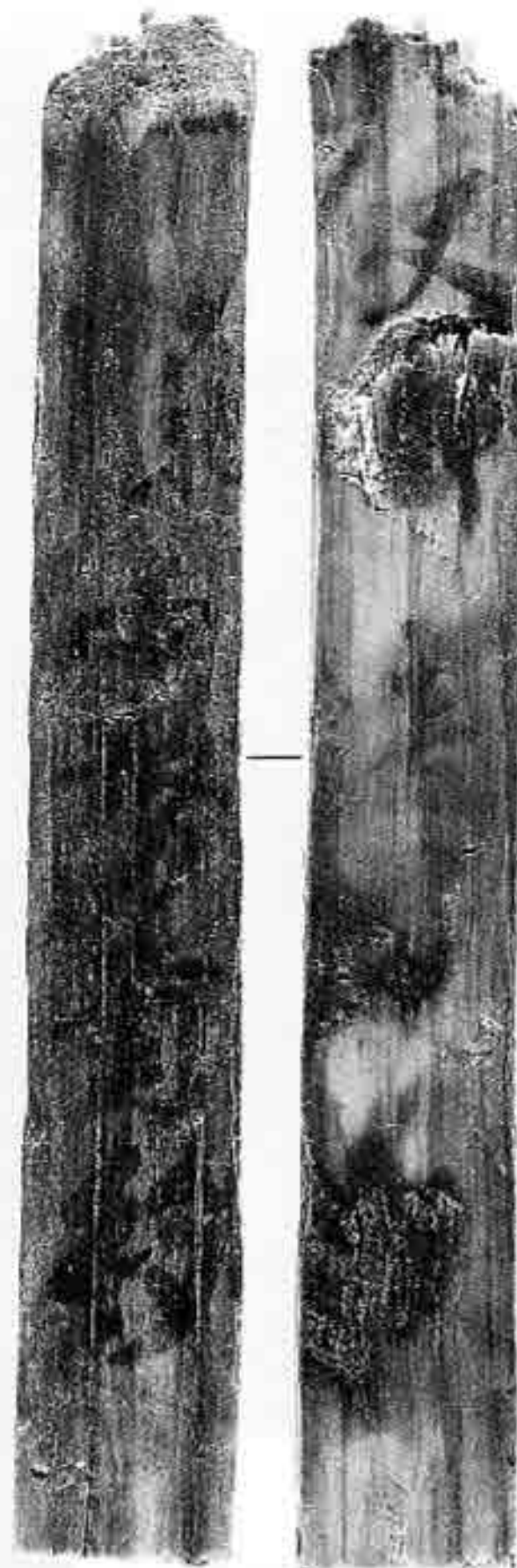
7



14



21



22



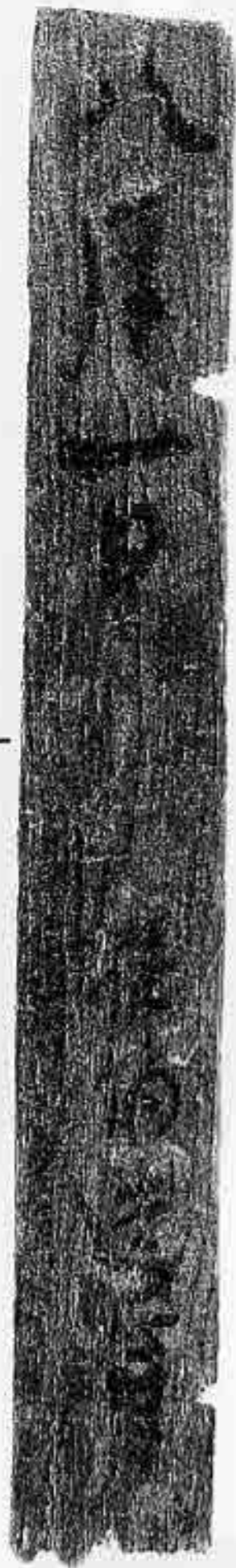
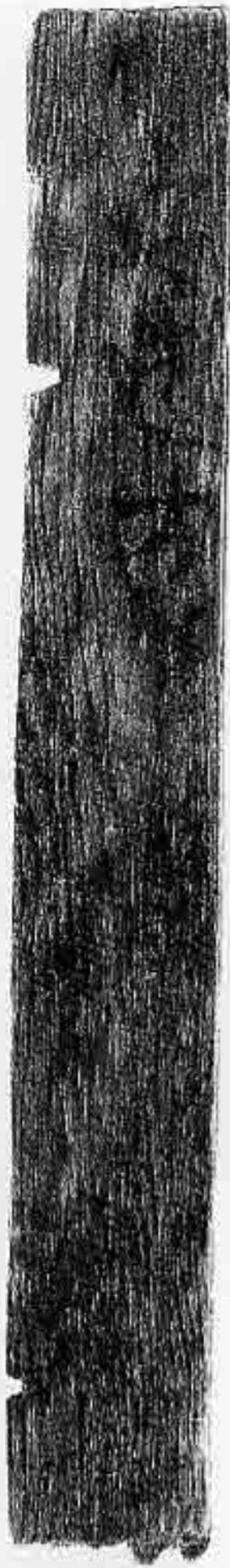
14



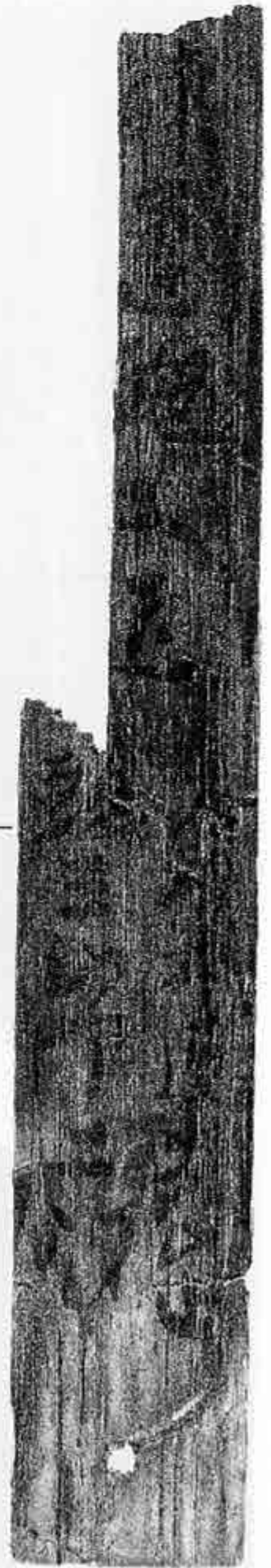
16



28



41



23



29



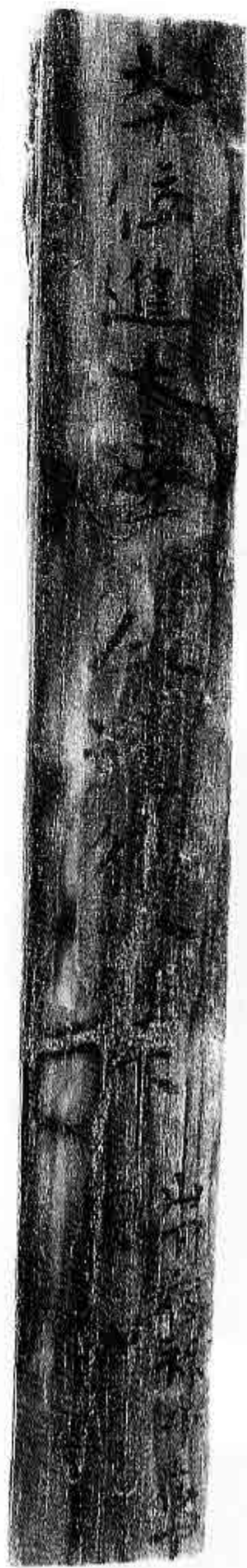
34



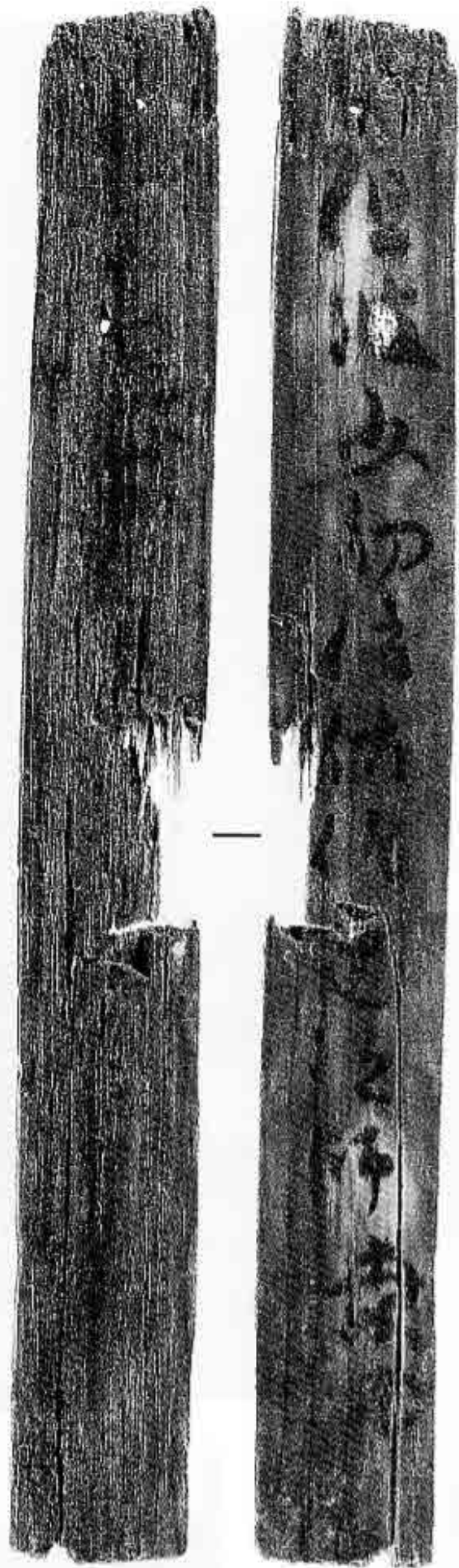
30



31



42



38



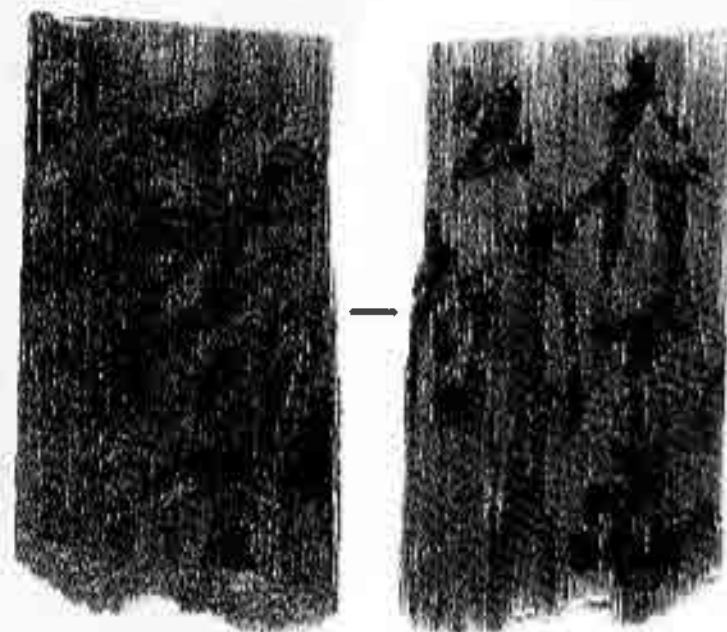
46



44



53
(4 : 5)



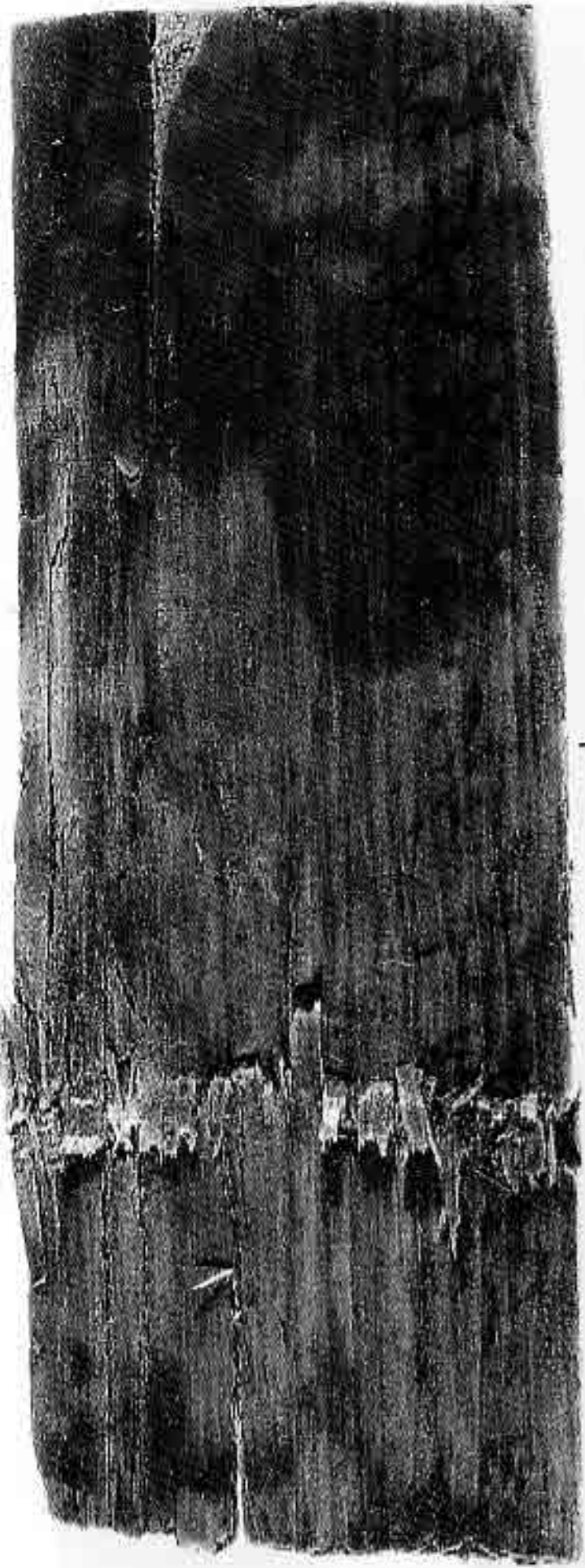
37



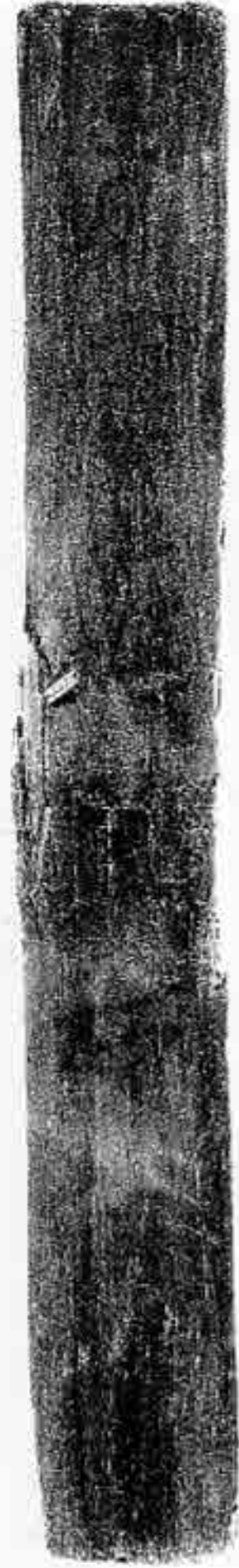
54



50



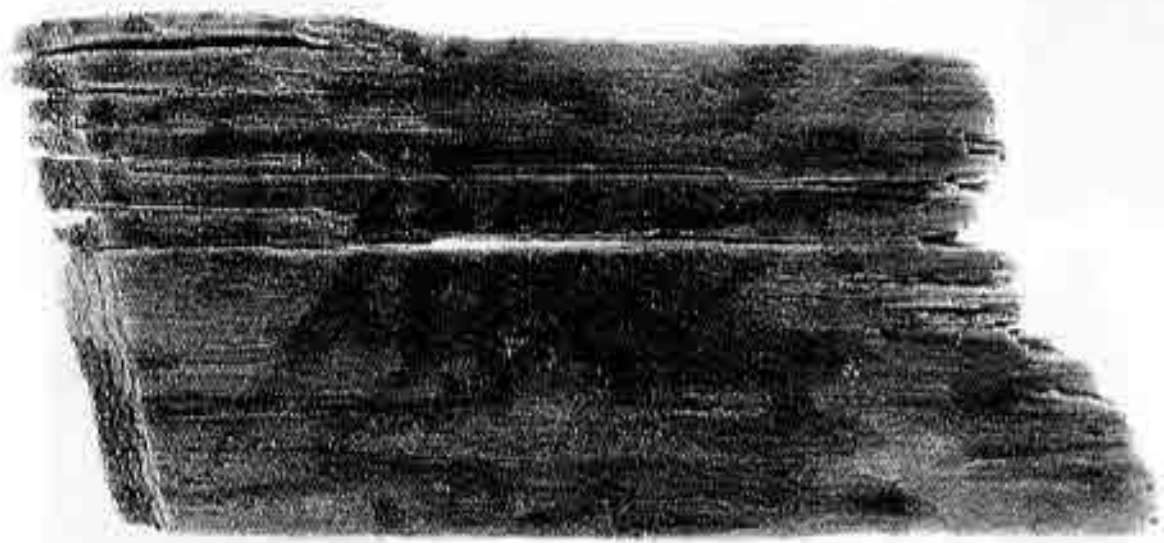
55



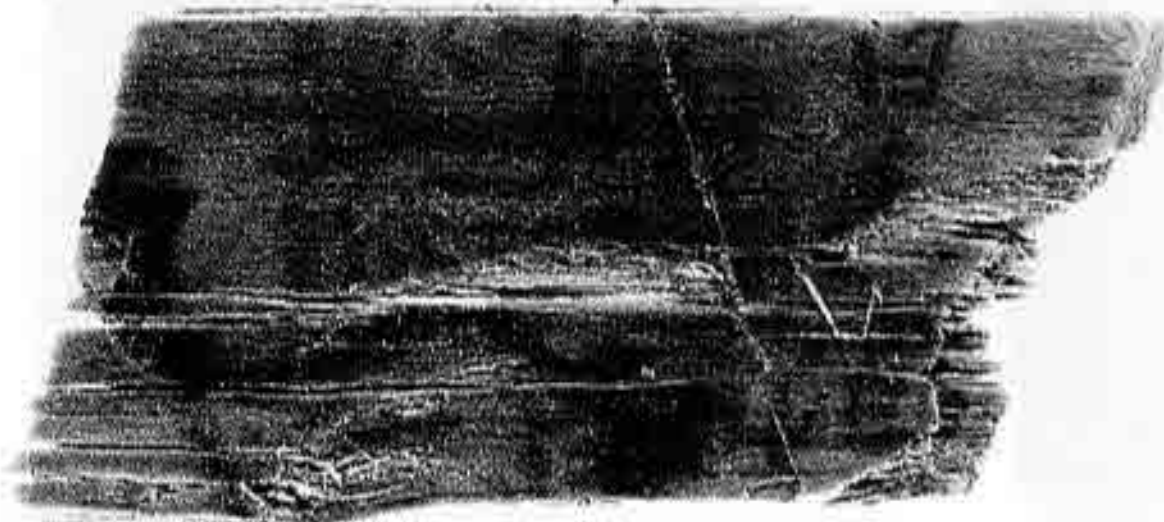
62



56



86



66

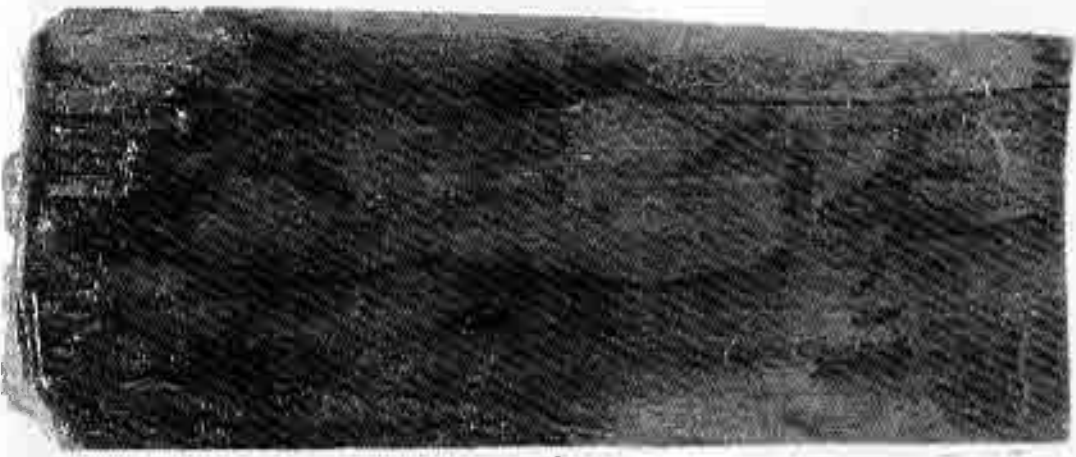
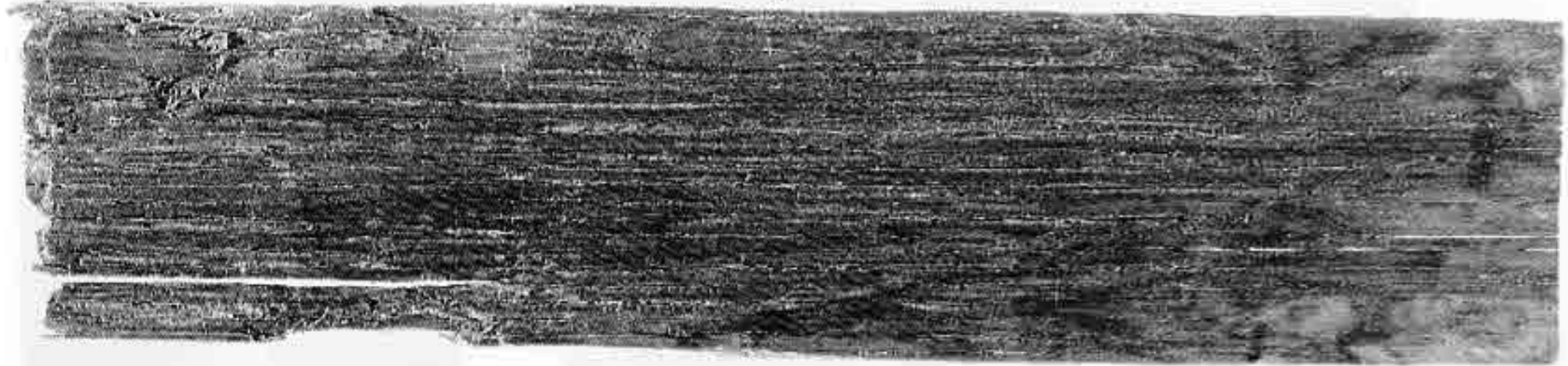


57

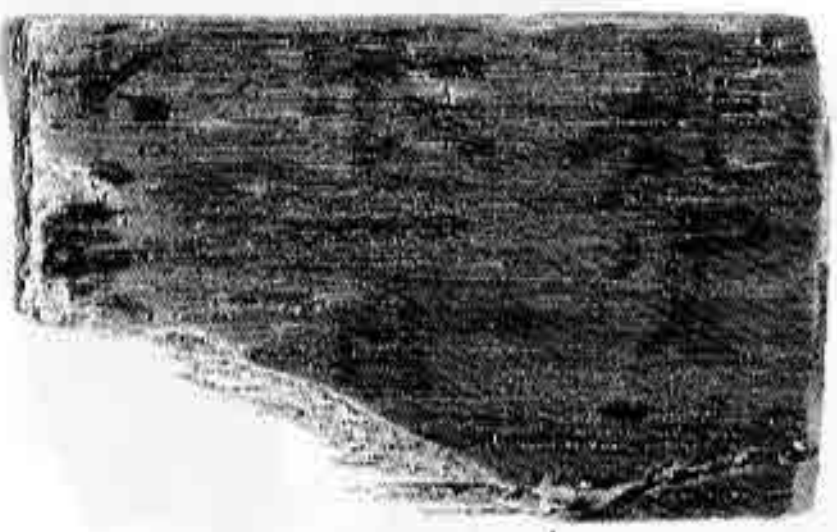
(4 : 5)



84



89



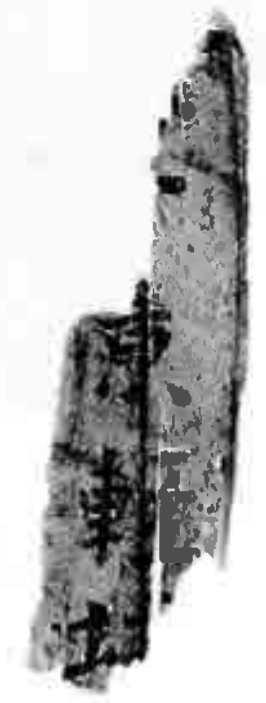
85



(4 : 5)



65



69



71



68



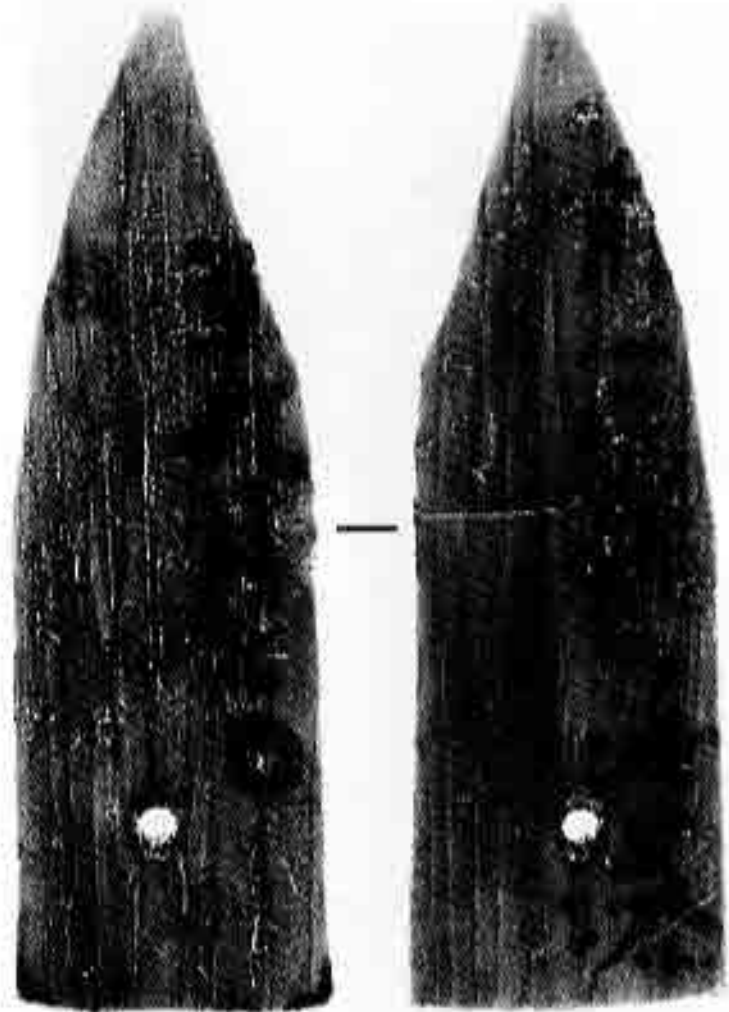
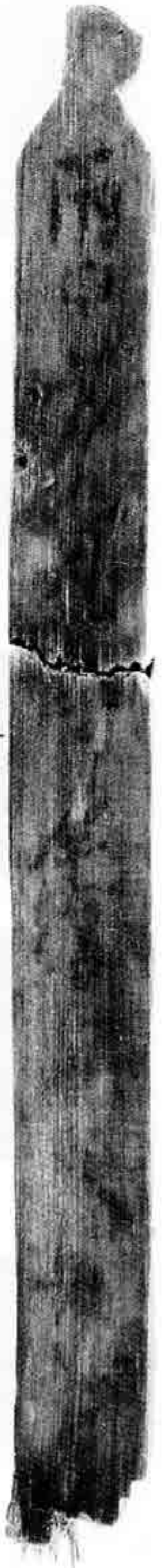
101



93



92



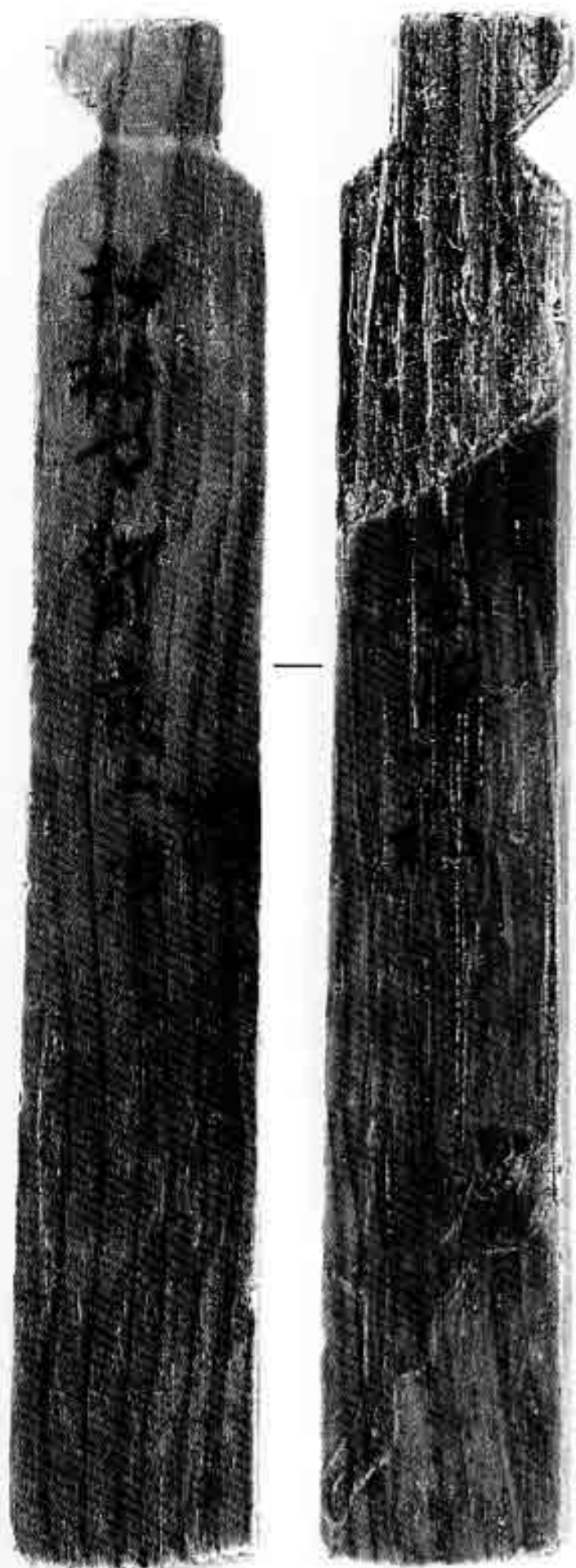
100



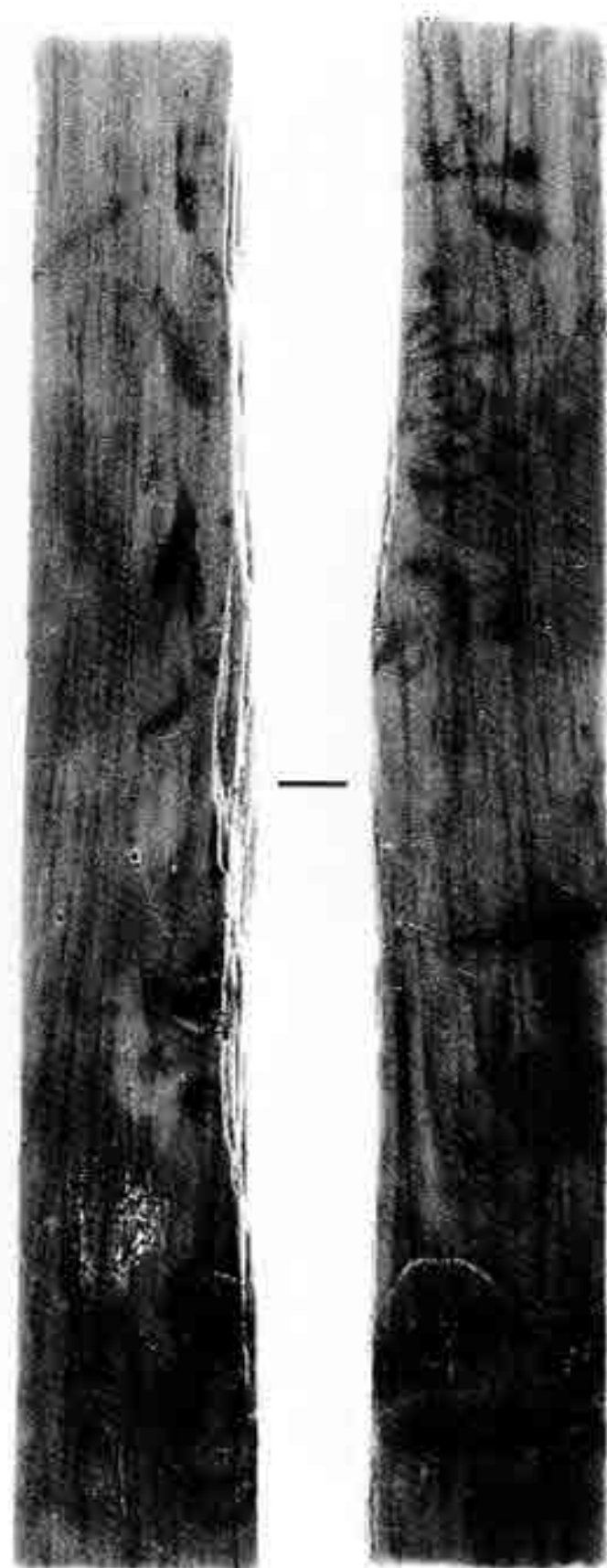
94



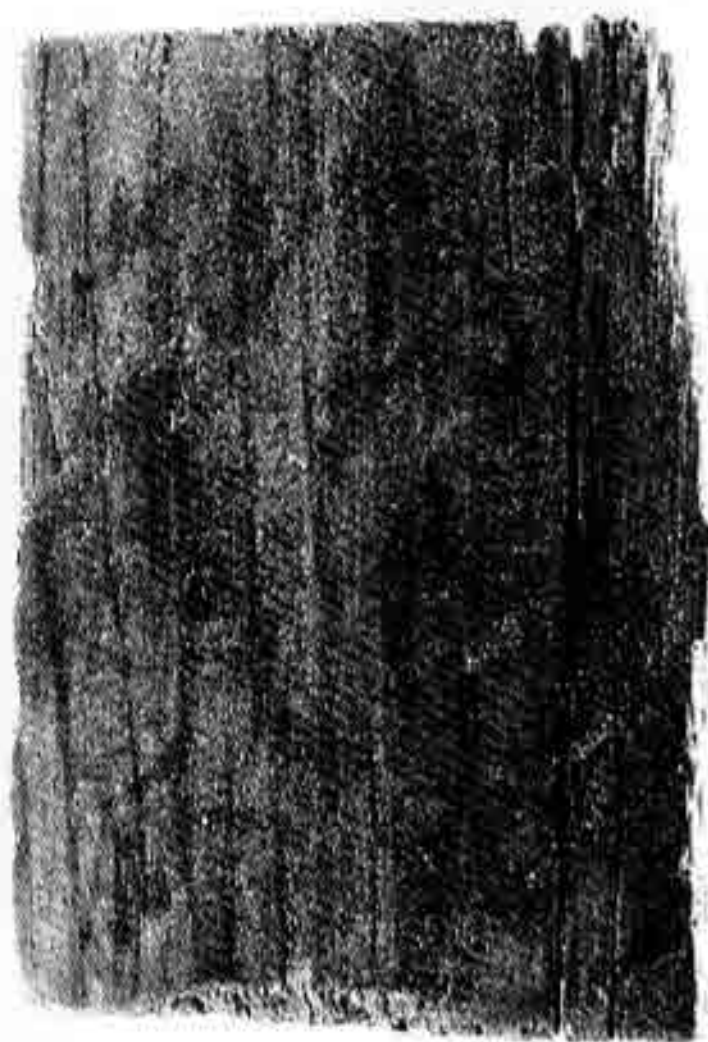
102



95



64



97



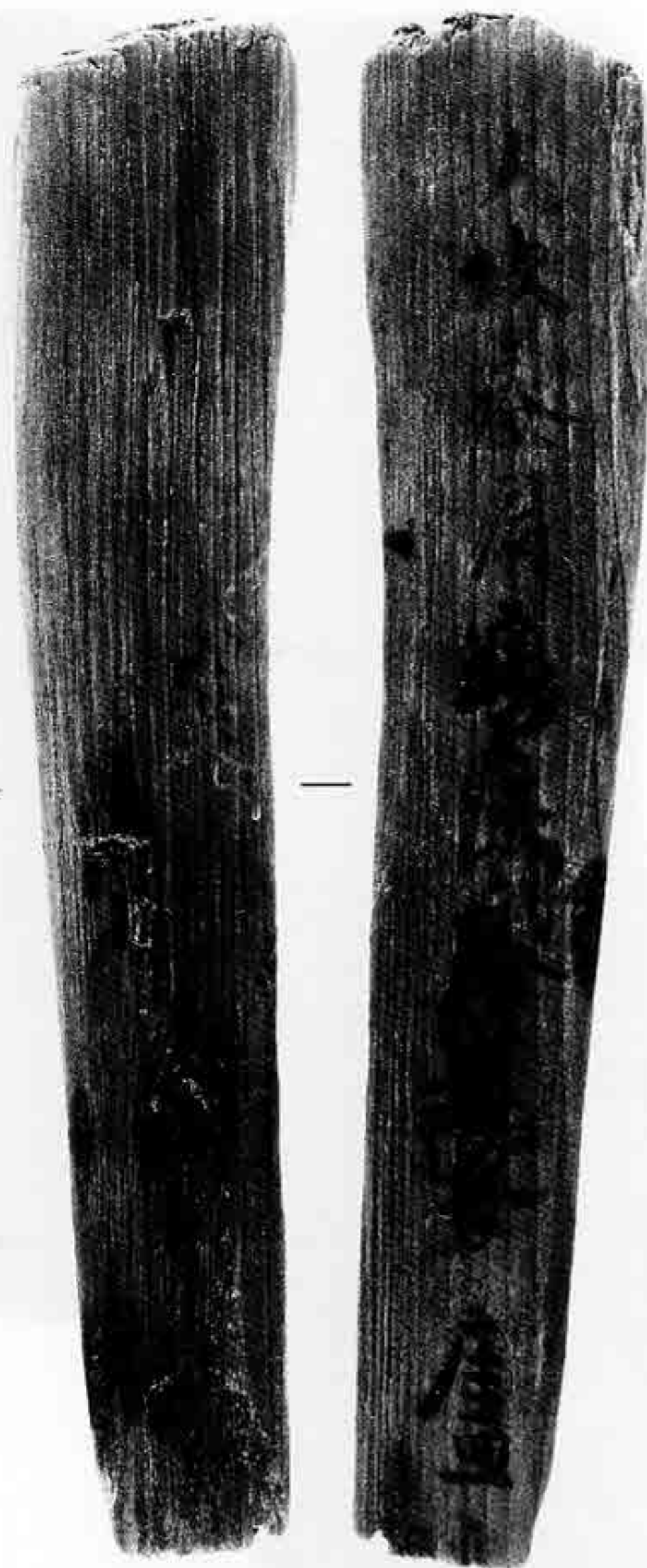
99



111



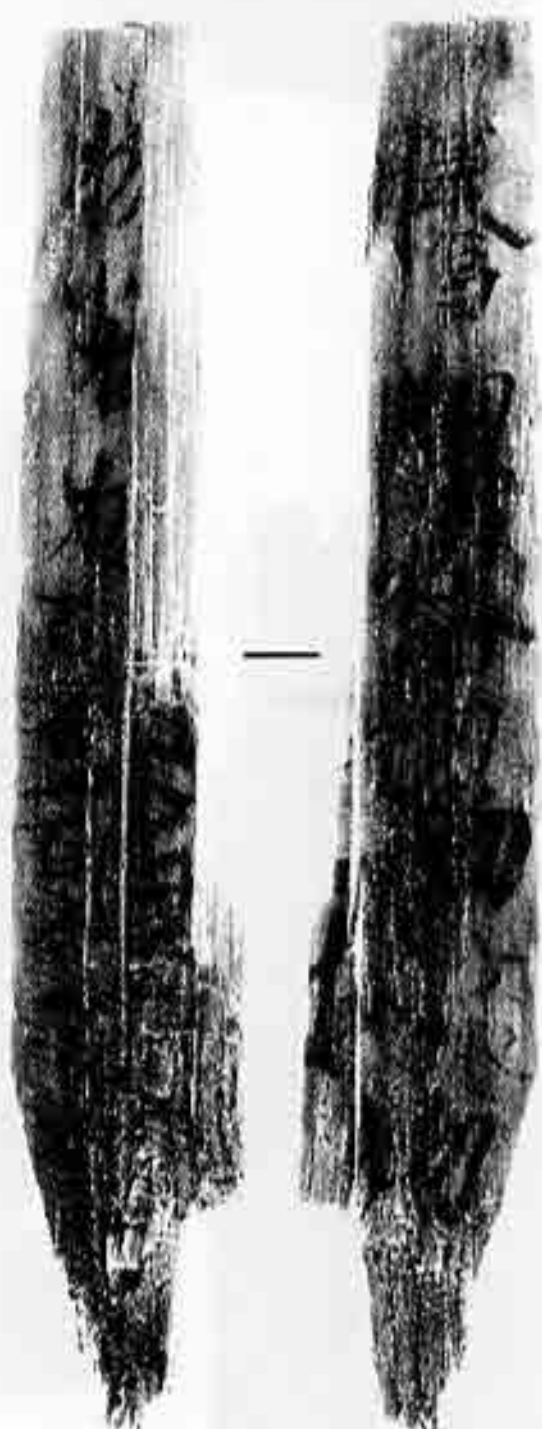
105



104



110



106



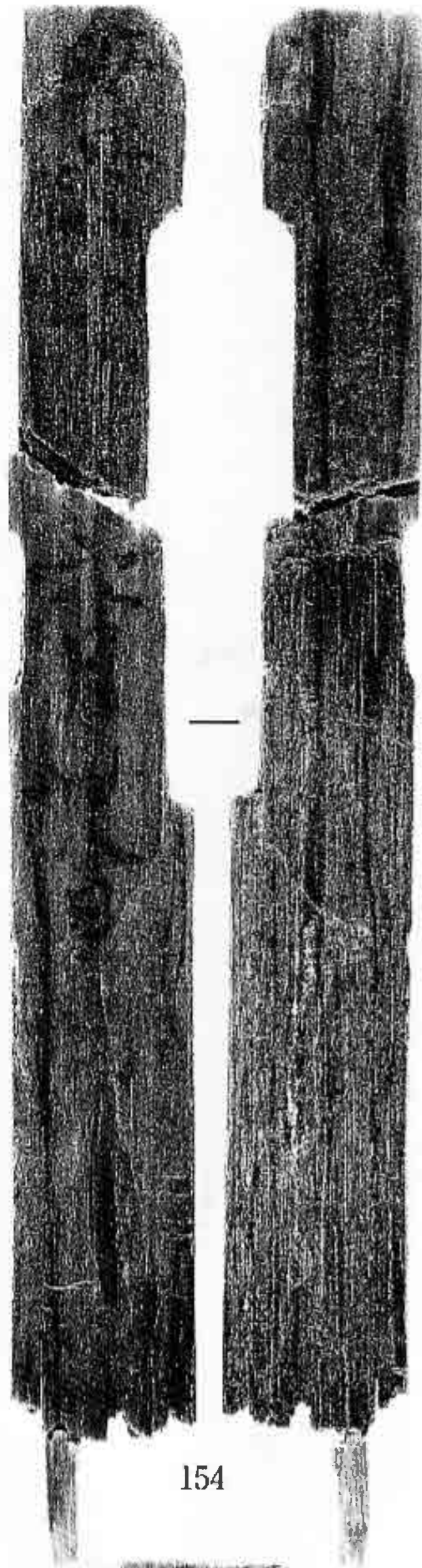
117



107



128



154



155



156



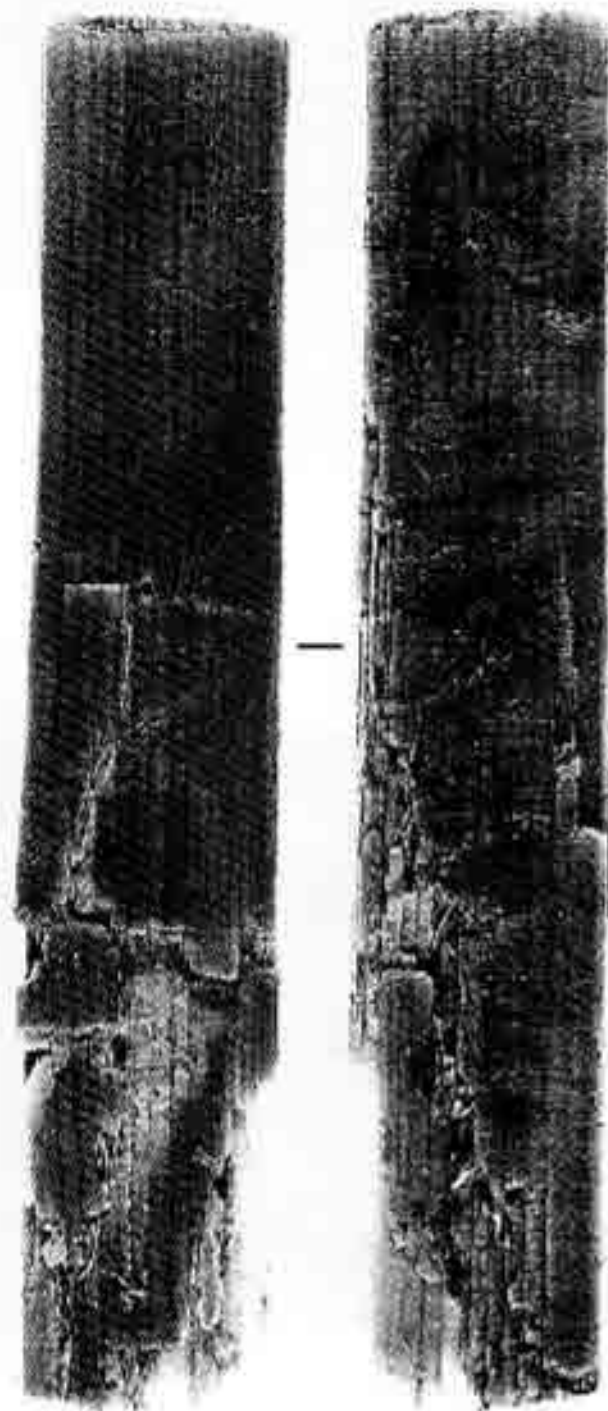
127



145



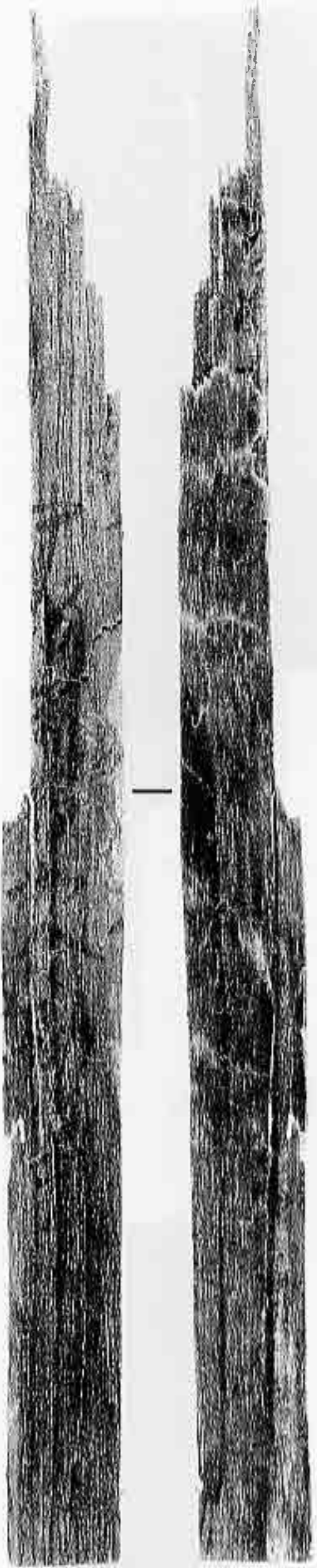
144



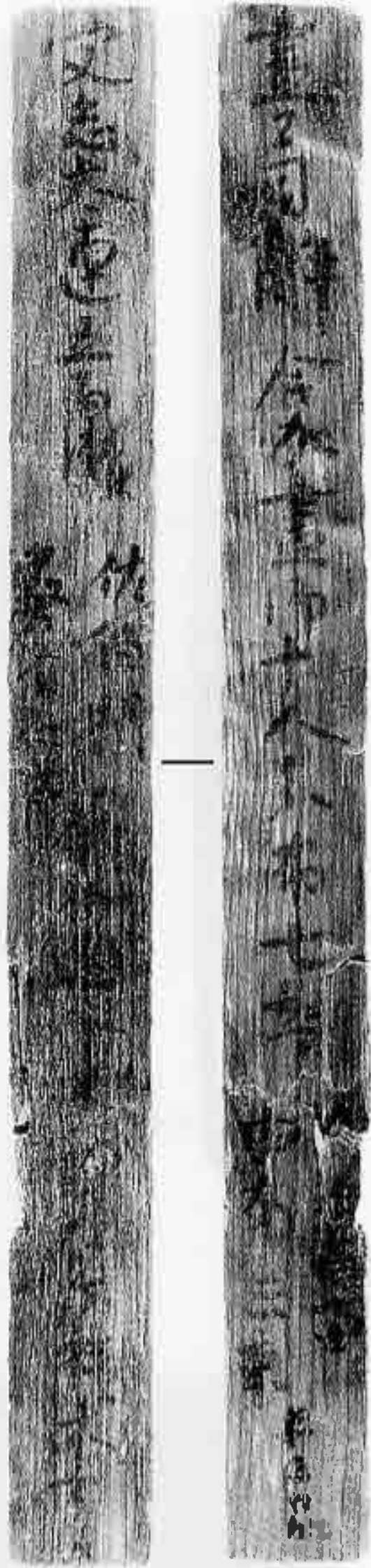
142



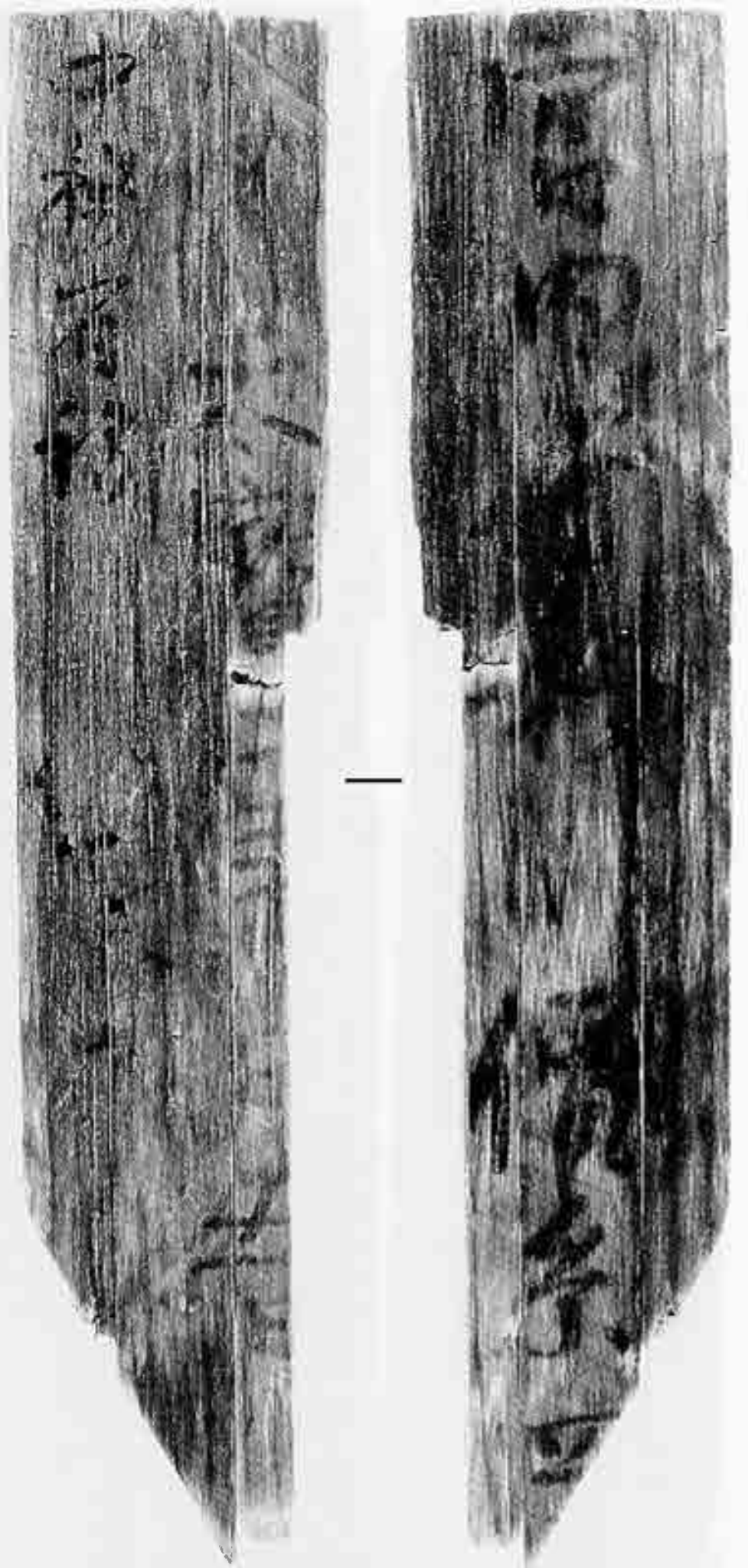
143



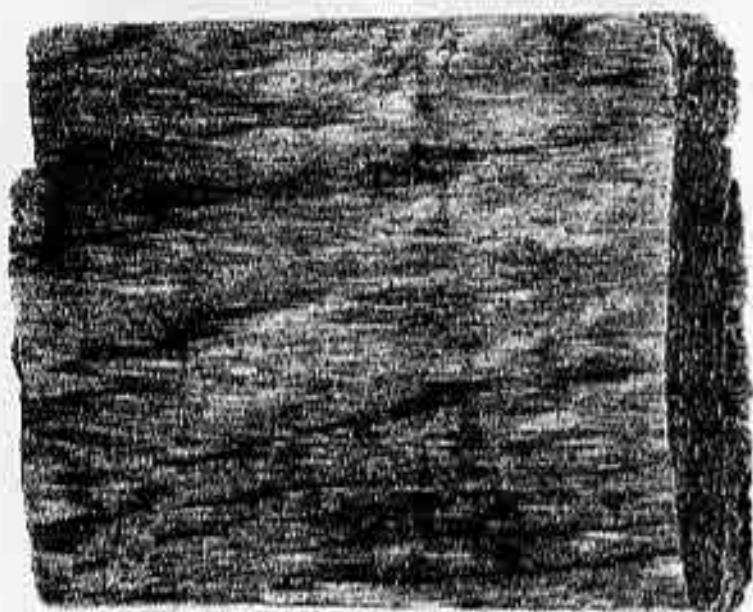
24



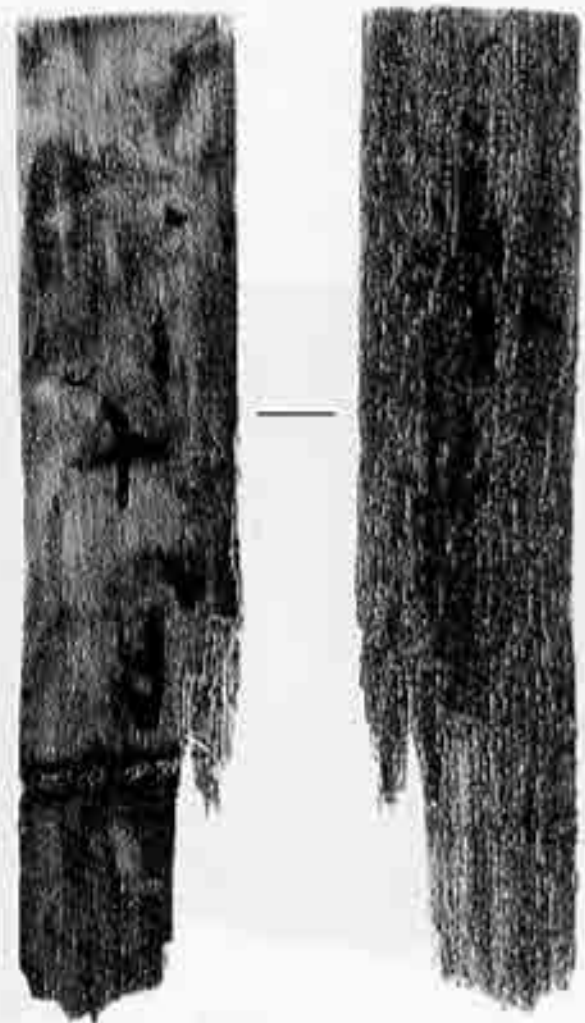
13



17

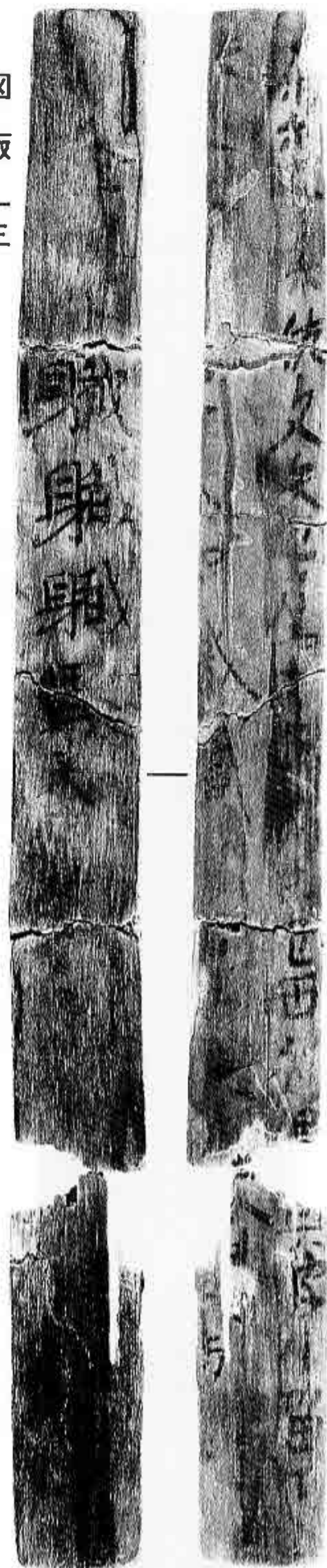


114

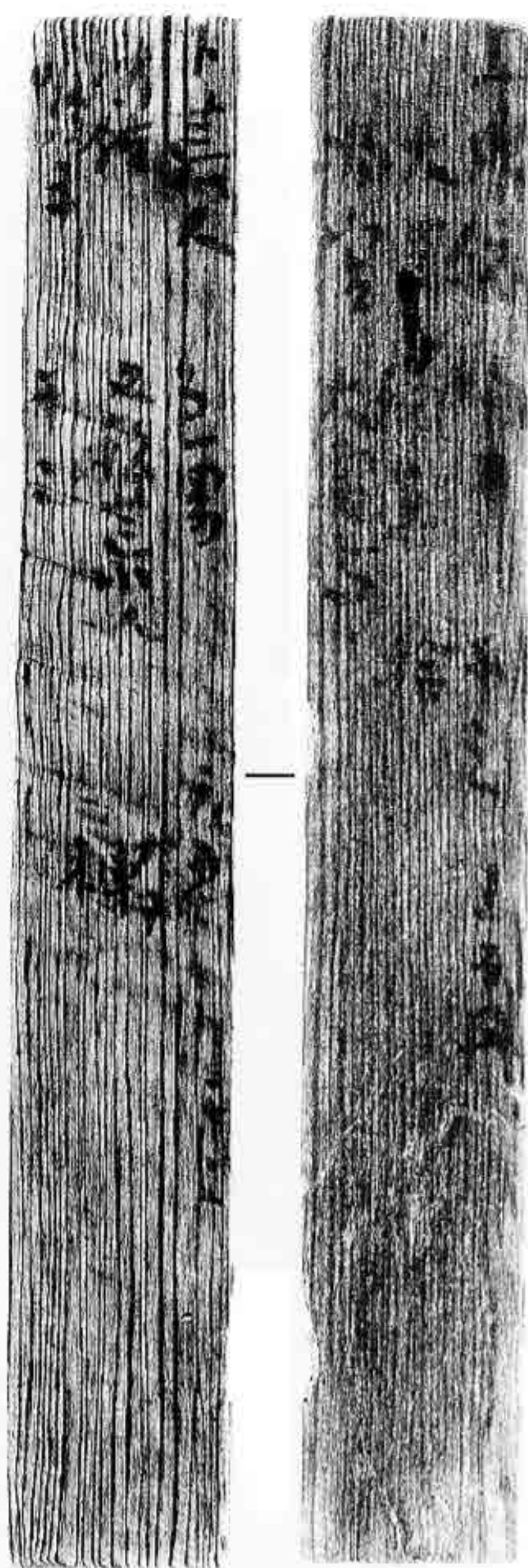


61

(1 : 2)



103

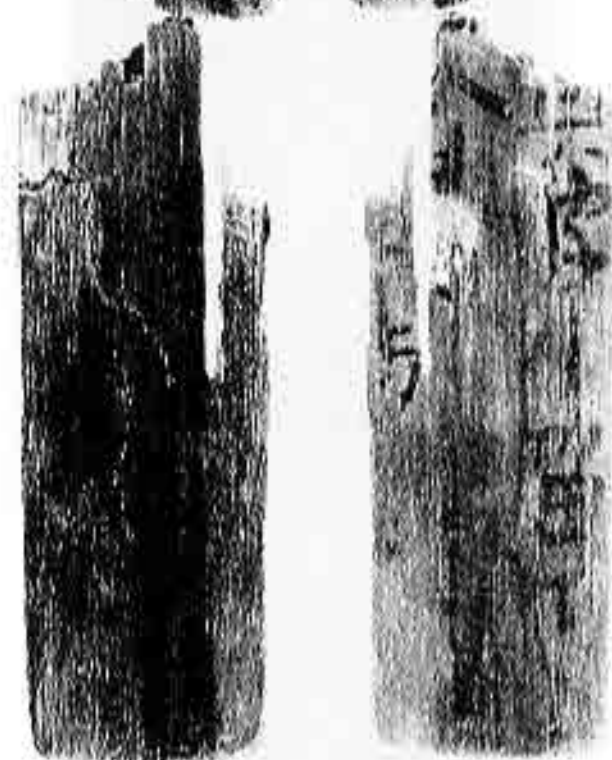


58

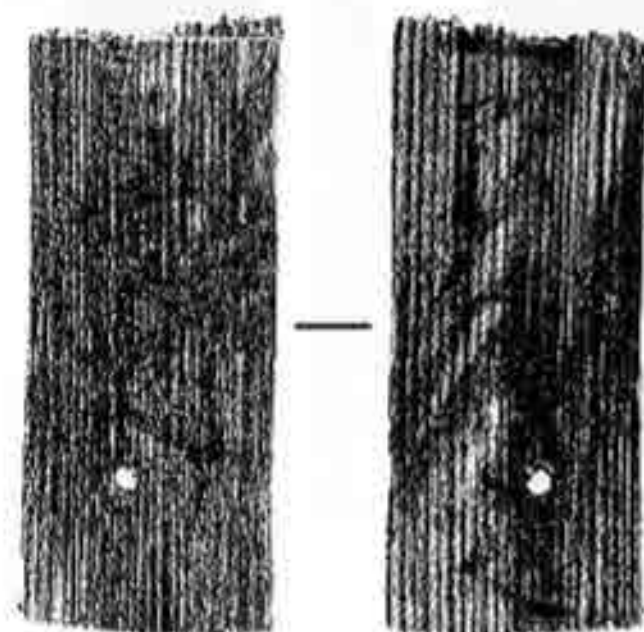


43

49



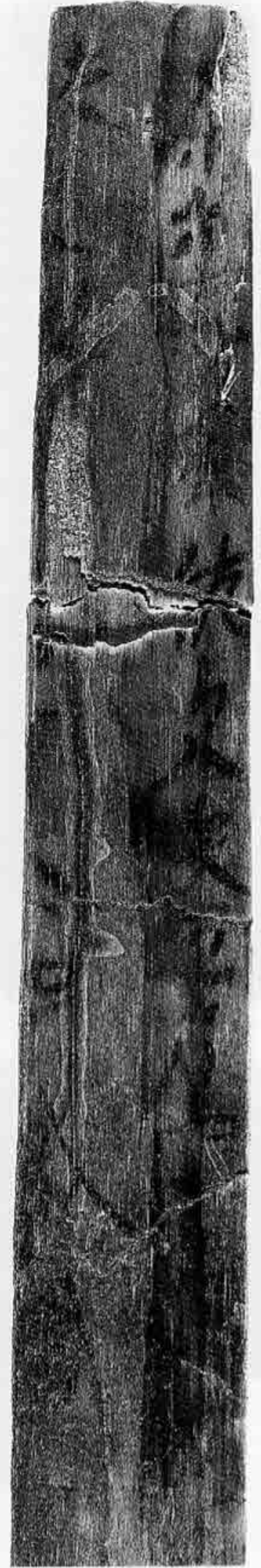
74



70

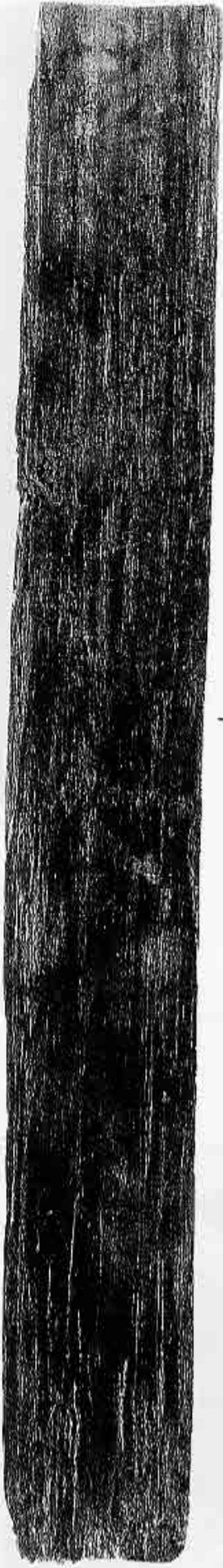


43 (表)

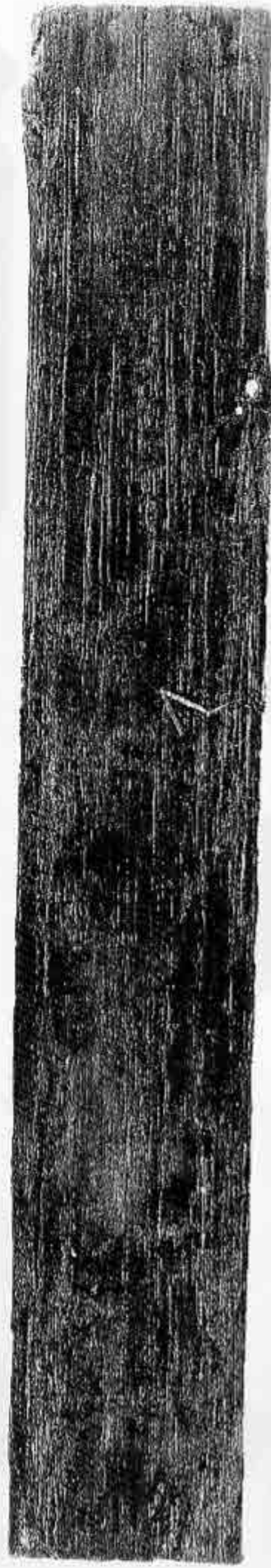


103 (表)

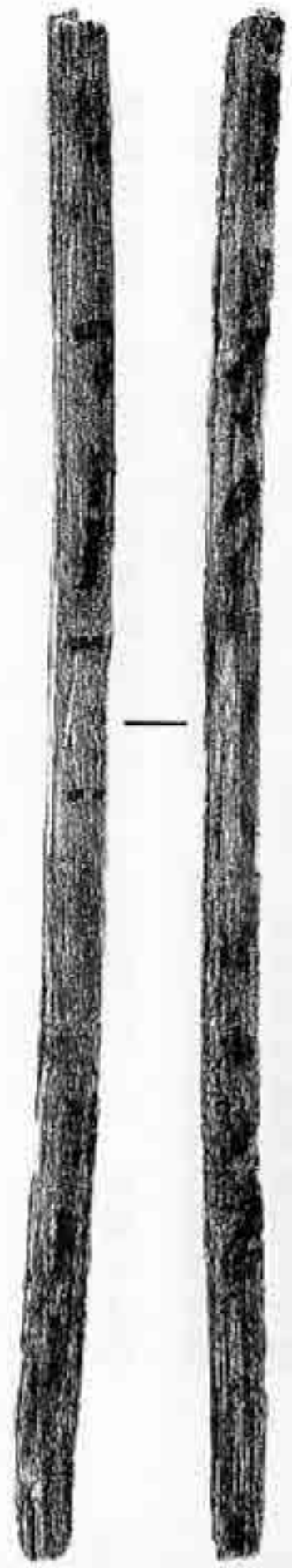
(1 : 1)



108



35



19



20



173



172



164

(4 : 5)



(参考) 第115次調査出土の状木製品

この概報には、さきに刊行した『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十五)』(二〇〇二年三月)以後、二〇〇一年度に飛鳥藤原宮跡発掘調査部の行なった発掘調査で出土した木簡のうち、主要なものを収録した。

木簡が出土したのは、①飛鳥藤原第一一五次調査(藤原京左京七条一坊西南坪)、②同第一一六次調査(石神遺跡第一四次調査)、③同第一一八次調査(藤原宮東南官衙地区)である。

①の出土点数は極めて多く、今回は一部を収録するにとどめた。残りは次号以降で報告する予定である。②については『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十五)』掲載の石神遺跡第一三次調査出土木簡の積文に変更を認めたので併せて掲げた。③は遺構の検討・遺物の整理を行なっている最中であり、次号以降で取り上げたい。

なお、①・②の木簡積文は既に一部を『奈良文化財研究所紀要二〇〇二』(二〇〇二年)に掲載したが、本概報の編集にあたり積文を変更したものがあるので、今後は本概報に拠られたい。

一、木簡の出土地点と状況

第一一五次調査(左京七条一坊西南坪の調査)

5AWH地区 二〇〇一年四月～一〇月

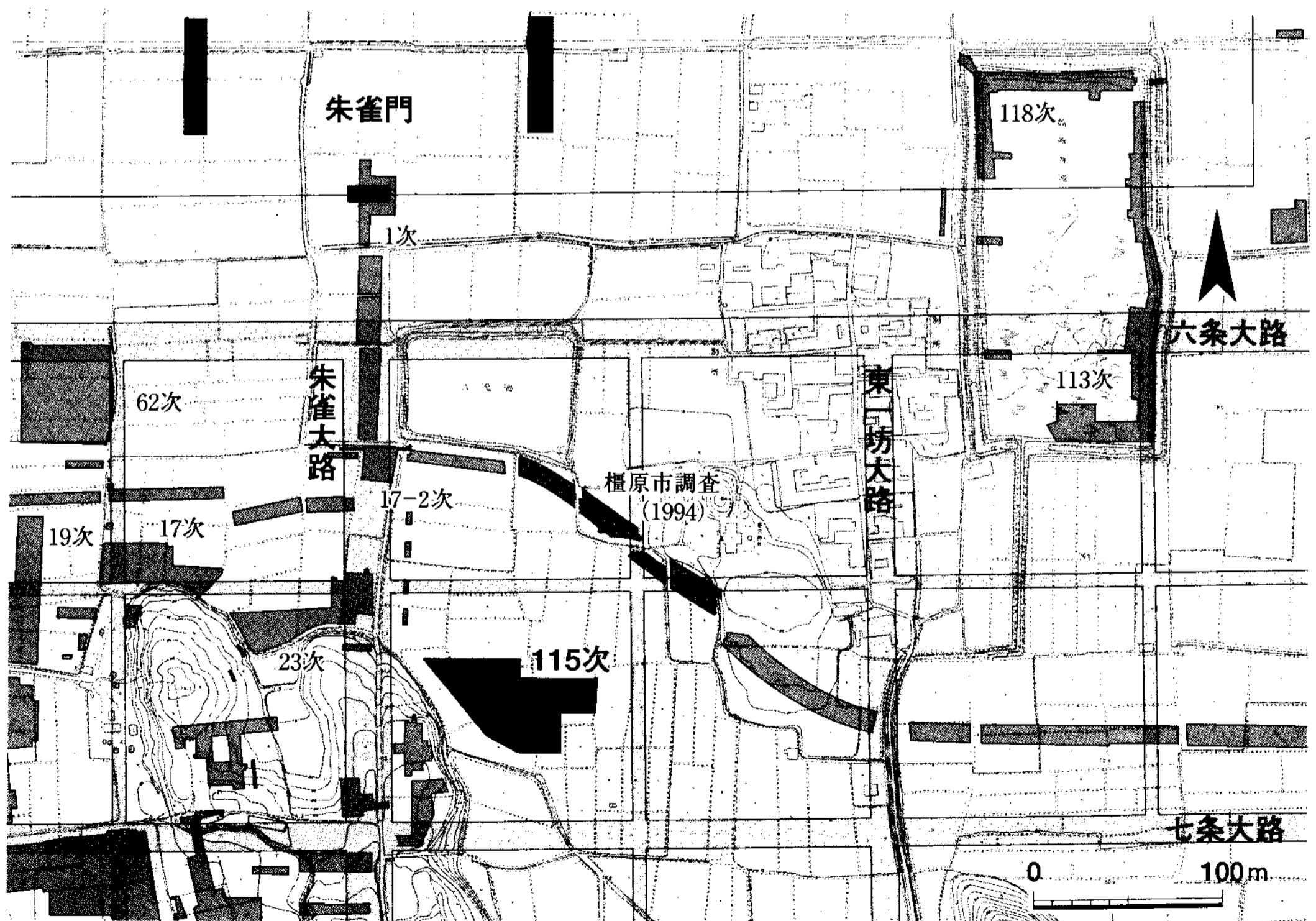


図1 第115次調査地周辺図

檀原市市営住宅の建て替え工事に伴う調査である。調査地は、藤原京左京七条一坊西南坪内にあたる場所で、坪のほぼ中央部に位置する(図1)。同坪は西は朱雀大路に接し、藤原宮南辺を走る六条大路とは一坪を隔てる。朱雀門からは南東に約三〇〇mの位置となる。東隣坪である左京七条一坊東南坪では、一九九四年度の檀原市教育委員会による調査で「遺帳内祢連国人」「皇子宮奉入」などの釈文をもつ木簡が出土しており、この付近に皇子(親王)と関係の深い施設が存在したと考えられている(『かしはらの歴史をさぐる』三、奈良県檀原市千塚資料館、一九九五年など)。

調査は二回に分けて行ない、まず東側約二〇〇m²、次に西側約一〇〇m²を発掘した。

調査地の現況は平坦地であるが、古くは南東から断続的に続く丘陵と南の日高山丘陵の間に位置する谷筋にあたり、遺構面は北に向かつて低くなっている。調査地南部は遺構面が高く、古代の遺構が良好に残存していたが、北東部から北部にかけては中世以降の沼沢地が広がっていた。基本層序は上から順に、①盛土(一m)、②旧耕土・床土(三〇cm)、③茶灰色砂粘質土(一〇cm)、④灰黄色砂礫(一〇cm)、⑤地山、となる。調査では、中世の沼沢地に伴う堆積層③を除去し、南西部では藤原宮期の整地土④上面、他は⑤地山で遺構の検出を行なった。

検出した主な遺構は、掘立柱建物九棟、溝五条、池状遺構一、土

坑二基、炉一基、立木列などである(図2)。これらはA～Dの四期に区分できる(図3)。

A期は七世紀中期～後期。炉SX四九八、埋土に炭を多量に含む南北溝SD四九九、生産関連施設の可能性のある小規模な建物三棟がこの時期に属する。

B期は藤原宮期前半。調査区西南部では灰黄色砂礫の整地が施され、建物や柵などが建てられる。このうち東西棟建物SB五一〇・同SB五一一・東西堀SA五一二は、北側柱列をほぼそろえて建てられている。北東部にはL字型に屈曲する溝があり、南北溝SD五一八は石組溝であるのに対し、東西溝(SD五一七↓SD五一六と変遷)は素掘溝となっている。中央部には東西約二三m、南北一〇m以上の浅い池状遺構SG五〇一が存在し、この南岸では当該期もしくはC期に棧敷状遺構SX五〇七が設けられる。

C期は藤原宮期後半。桁行八間(二〇・七m)、梁行二間(五・六m)の規模をもつ大型の東西棟掘立柱建物SB五〇〇がつくられる。SB五〇〇の建物心は当該坪の南北中軸線上に位置し、坪内を区画する施設も認められないため、この坪は少なくとも一町を占める大規模敷地であったと考えられる。

この時期、池状遺構SG五〇一は、木簡を含む大量の木屑によって埋め立てられ、北東部には集石遺構SX五〇二があらわれる。SG五〇一出土の木簡は現在整理中であるが、五〇〇〇点以上に及ぶ

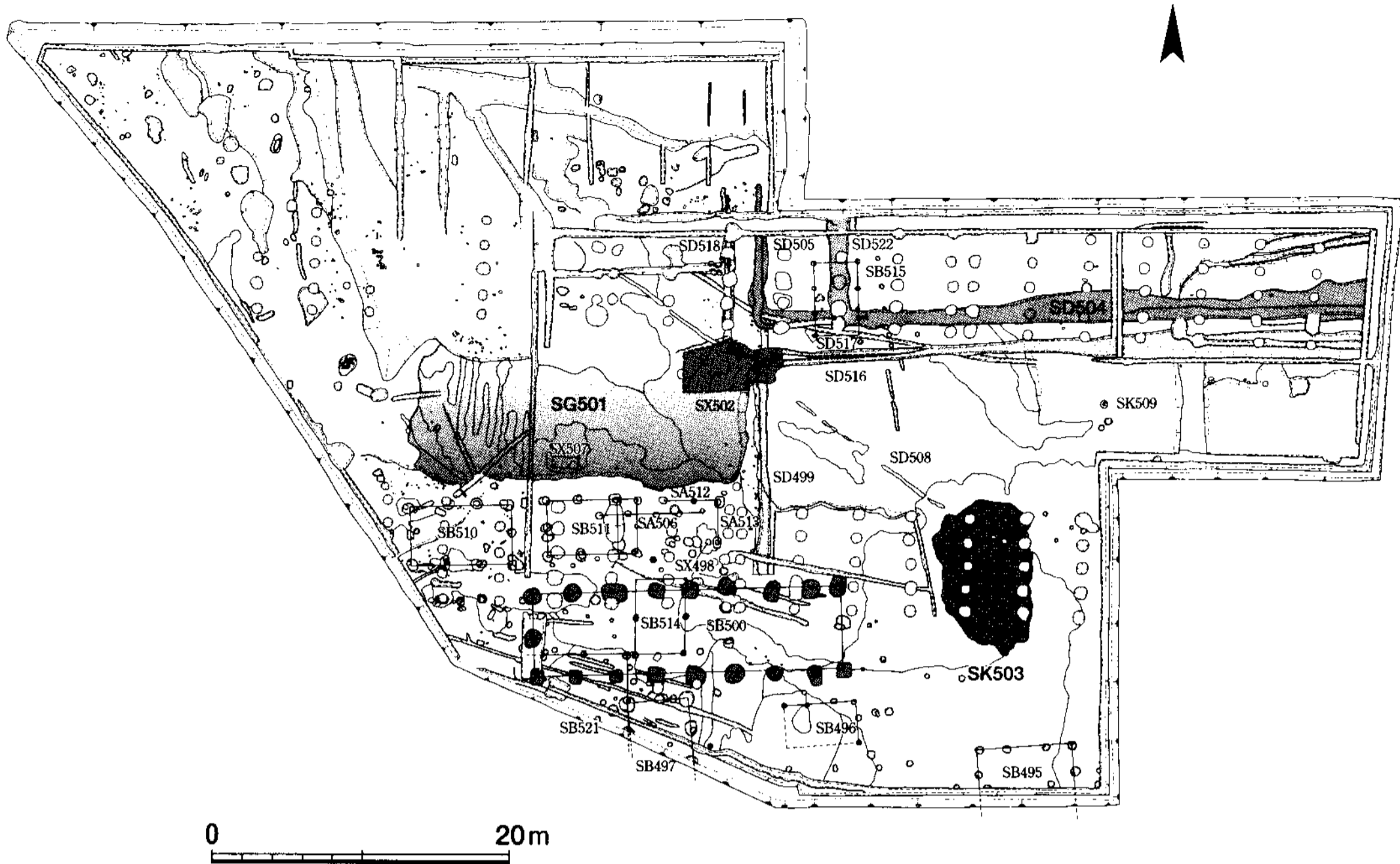


図2 第115次調査遺構図

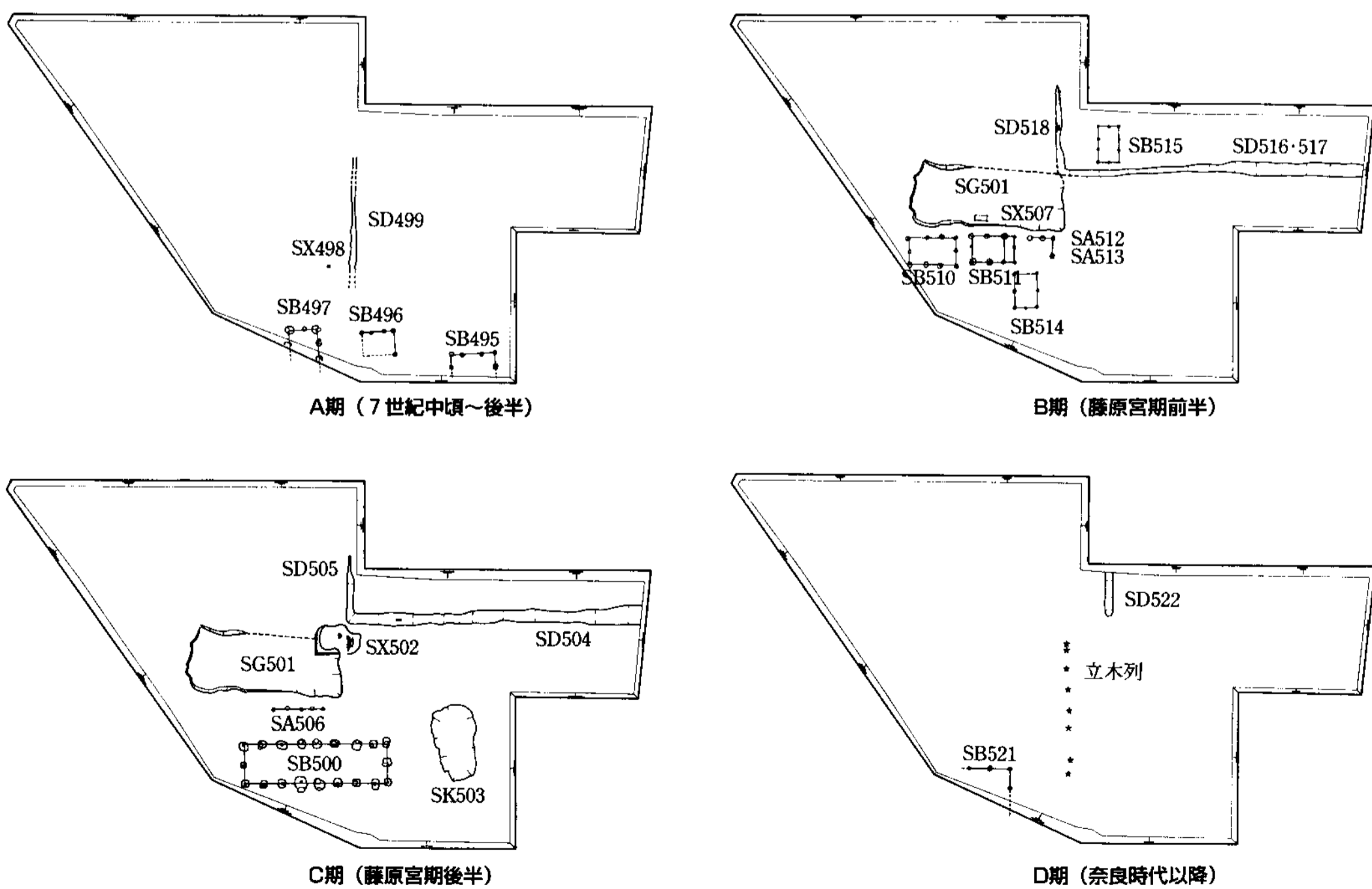


図3 第115次調査遺構変遷図

と予測される。これらの木簡は、一部七世紀末のものを含むとはいえ、年紀や位階表記・官司名称などからみて、大宝元年（七〇一）・同二年を中心とした大宝初年の木簡群といえる。内容的には門榜制に関わるものが目立ち、門号氏族名も多く確認することができる。「衛門府」と書かれた習書木簡（No.108）や「靱負」とある削屑（No.66）も存在し、また遺物の中には的状の木製品が含まれている（図版一六）。以上を考えあわせると、これらの木簡群は衛門府に関わるものと推測されるが、中務省との関係も含めて、なお慎重な検討を要する。

そのほかC期には、SB五〇〇の東側に、南北一〇m、東西六mの浅い楕円形土坑SK五〇三が設けられる。この土坑から木簡が一六六（うち削屑七一点）出土している。また調査区北東には、L字型の素掘溝が存在し、うち東西溝SD五〇四から木簡一点が出土した。SD五〇四は東方向に幅を広げる溝で、東端部では幅約二m、深さ約一〇cmである。

D期は奈良時代以降であるが、具体的な時期は確定できない。ヤナギ属を主とした立木列や、建物もしくは塀の可能性のあるSB五二一、素掘南北溝SD五二二がある。

中世以降になると、前述のとおり、北東部から北部にかけて沼沢地が広がるが、この堆積層の中から、木簡二八点が出土した。ただし木簡の大半は古代のものと考えられる。

第一一六次調査（石神遺跡第一四次調査）

5AMD地区 二〇〇一年七月～一二月

石神遺跡第一三次調査（飛鳥藤原第一一〇次、二〇〇〇年度）に東接して東西二五m、南北一八m（面積四九〇㎡）の調査区を設け、遺跡北限区域の状況を明らかにすることを目的とした。以下、第一三次調査の成果もふまえつつ、検出遺構の概略を記す（図4）。

七世紀前期～中期（A期）。東西方向の掘立柱塀、およびその南北を流れる二条の東西方向の石組溝で構成される区画施設が建設される。北側の東西石組溝SD三八九六は石神遺跡最大の幅を持ち、これが石神遺跡の北限となる。この溝は後に埋め立てられ、溝底に石敷を持つ石組溝SD三九五〇が同位置につくられる。第一三次調査では、SD三八九六の埋立土から木簡が出土している（本号に訂正釈文を掲載）。一方、東西掘立柱塀SA三八九三および南側の東西溝SD三八九一は当該期に北へ移され、塀SA三八九五・溝SD三九〇二が設けられる。これらの東西溝には南から流れてくる南北溝が取り付くが、周辺遺構の変遷に伴い南北溝も数回にわたって付け替えや改修が行なわれた。調査地内におけるA期の建物は小規模で、中には三間四方面程度の総柱建物も含まれる。

七世紀後期（B期）。遺跡の状況は一変する。全体が整地土で覆われ、東西塀・東西溝は調査区内にはつくられていない。A期の南

北溝SD九〇〇とほぼ同じ位置に、掘立柱南北塀SA一四九〇がつくられ、塀の西側には長大な桁行をもつ大規模建物が配置される。

七世紀末期（C期）。B期の建物などは撤去され、並行する二条の南北方向の溝SD一三四七・SD一四七六が貫通するのみとなる。西側のSD一三四七は当初素掘りであった（SD一三四七A）が、後に改修され、側石が設けられる（SD一三四七B）。

木簡は、C期の溝SD一三四七Aの堆積土から八二点（うち削屑七六点）、同溝の埋立土から一点出土した。

以上、二〇〇一年度の発掘調査の詳細については、『奈良文化財研究所紀要二〇〇二』（二〇〇二年）を参照されたい。

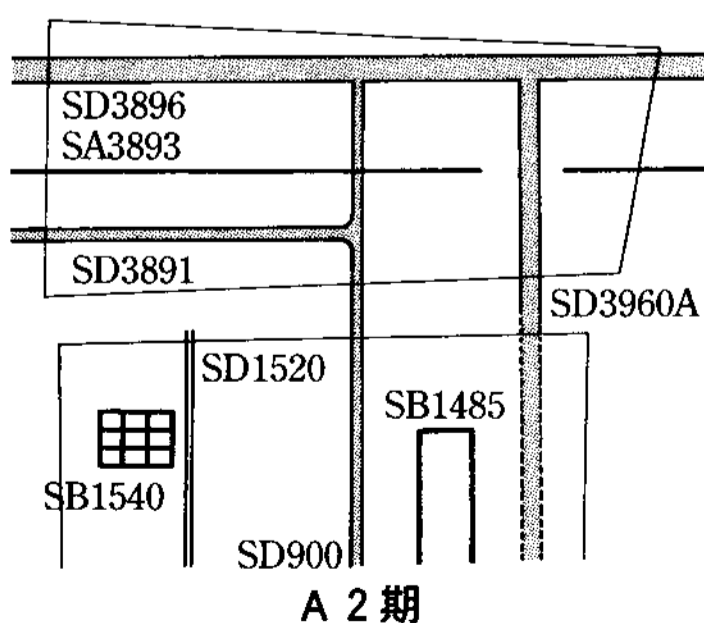
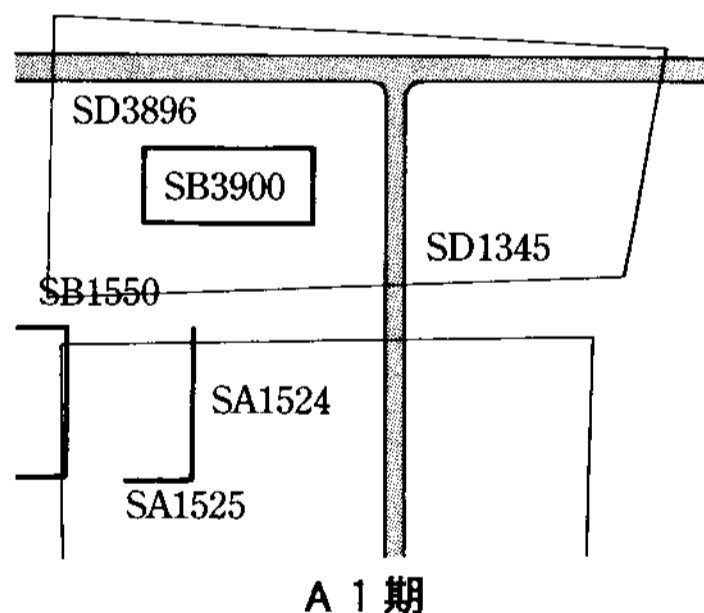
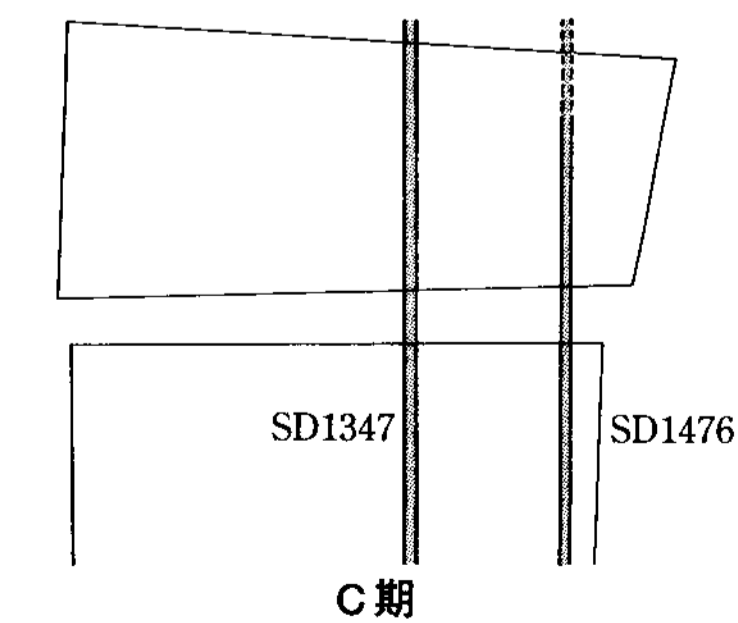
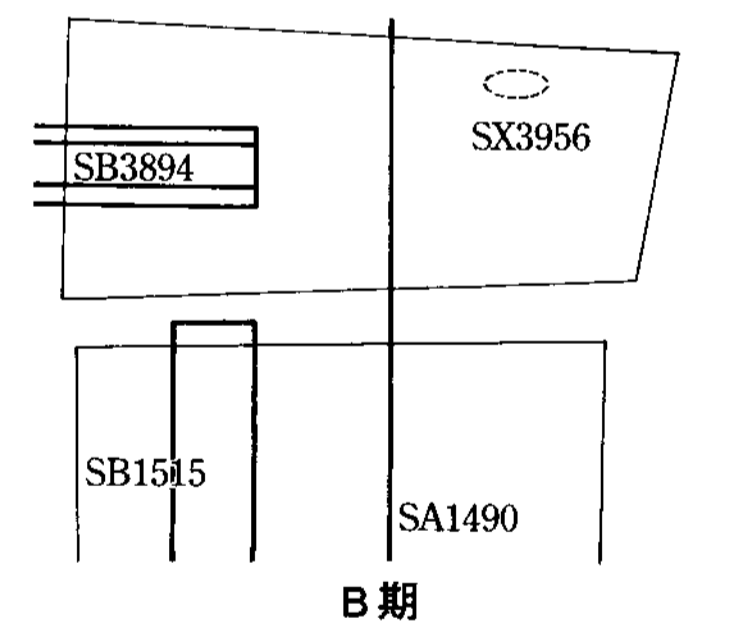
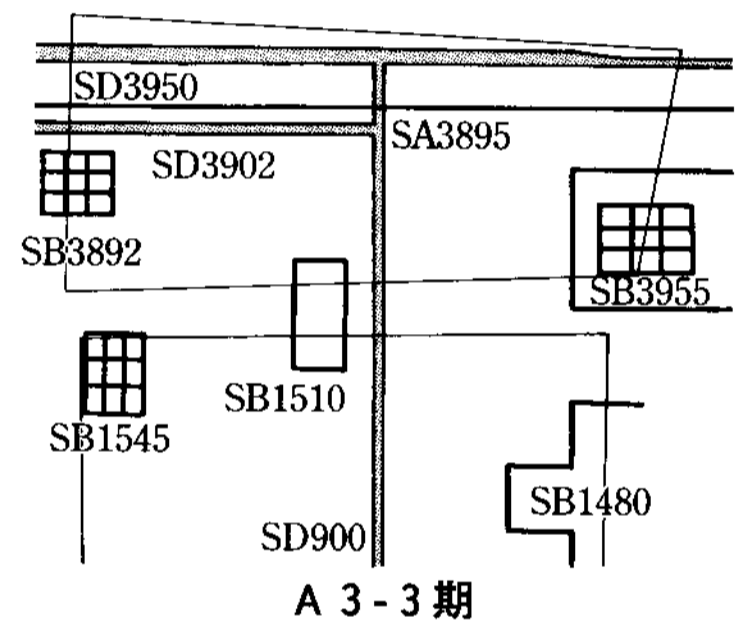
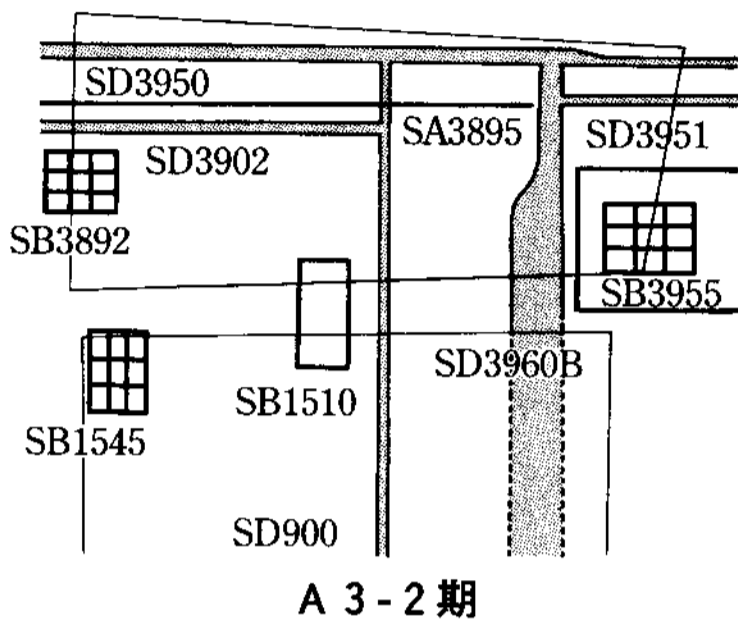
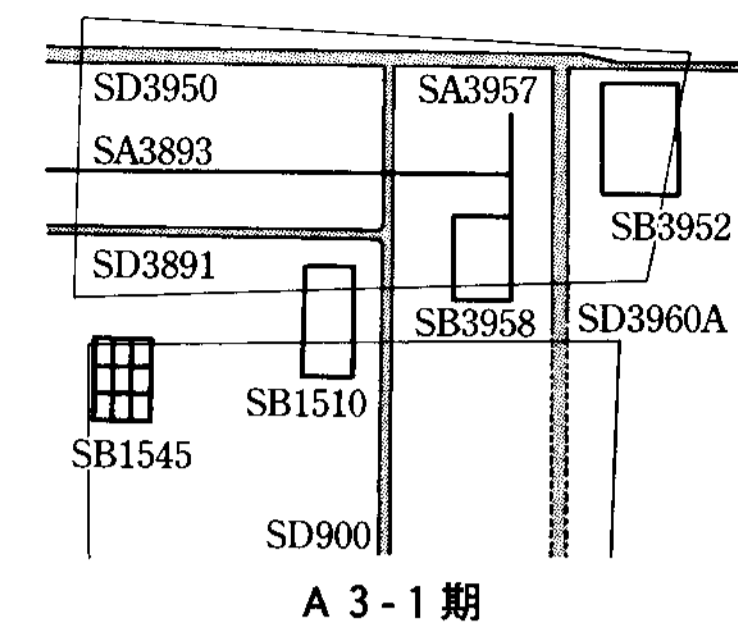


図4 石神遺跡遺構変遷図

二、凡例

(一) 木簡は内容により、文書、付札、その他の順に排列するのを原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二) 積文の漢字は概ね現行常用漢字に改めたが、「寶」「廣」「嶋」「籠」「圓」「掬」「マ」「ア」「ツ」などについては、この字体を用いた。なお「部」の異体字である「マ」と「ア」の違いは相対的なものである。

(三) 積文に加えた符号は次のとおりである。

・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

○ 木簡の上端もしくは下端に孔が穿たれていることを示す。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□□ 欠損文字のうち字数が推定できるもの。

□□□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□□□□ 記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定した

もの。

⋮ 同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一字以上が不明なもの。

■ ■ ■ ■ ■ 抹消により判読が困難なもの。

々々々々 抹消部分の字画が明らかでない場合に限り、原字の左傍に付した。

「」 異筆、追筆。

「」 カギ型の合点。

点型の合点。

「」 校訂註のうち本文に置き換わるべき文字を含むもの。

() 右以外の校訂註、および説明註。

〔×〕 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所

の左傍に・を付し、原字を上のを領で右傍に示した。

カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。

ママ 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(四) 積文下の右行上段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さ

を示す(単位はmm)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法

量を含弧つきで示した。長さ・幅は木簡の文字の方向による。

(五) 積文下の右行中段に現在の遺存の形態を示す型式番号を記し

た。なお端とは、木簡を木目方向においた時の上下両端をいう。

011型式 長方形の材(方頭・圭頭などもこれに含める)のもの。

015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失

われたもの。原形は011・015・032・041・051型式のい

ずれかと推定される。

021型式 小型矩形のもの。

022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。

033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は031・032・033・043型式のいずれかと推定される。

041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。

049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にするが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。

051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は033・051型式のいずれかと推定される。

061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。()内に製品名を註記した。

065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。
091型式 削屑。

括弧内の番号は二次的整形の場合に推定できる原型の型式。

(六) 釈文下の右行下段に出土地点を示す小地区名(アルファベット・数字)を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した破片が接続したものは地区名を併記した。

(七) 釈文の出土地点下に付した「*」印は、口絵図版に写真を掲げた木簡を示す。例えば「*3」は「図版二」に対応する。

(八) 本号所載の木簡は二次的整形を被ったものが多いことなどから、本号では便宜上、釈文下の左行に、木簡の原形を保持しない部分の形状に関する注記を施した。その際、木簡の「上端」「下端」「左辺」「右辺」を「上」「下」「左」「右」と略記した。

木簡の釈読は、飛鳥藤原宮跡発掘調査部の山下信一郎(当時、現文化庁記念物課)・市大樹・宮川伴子(当時)・竹内亮が行ない、京都大学の阿部健太郎・加藤麻子・斎木涼子・中町美香子・鍋島恵子・吉江崇、大阪市立大学の遠藤慶太・後藤真、関西大学の藤井美沙子・芳之内圭の各氏の助力を得た。写真撮影は井上直夫があたり、現像・焼付には岡田愛氏が協力した。図版作成には稲田登志子氏の助力を得た。本書は市大樹・竹内亮が編集した。

三、 积文

第一一五次調査 (5AWH地区)

池状遺構SG501

1. 御名部内親王宮

太寶□

(142)・(35)・5 081 HJ16 *1
二片ヨリ成り、下片ハ削屑。上片ハ左右割レ(但シ右下ハ二次的整形)。

5. 石川□□□
〔宮カ〕

(82)・(24)・2 019 HJ16
下折レ、左二次的整形。

6. 衣縫王□□□□□□

〔給カ〕
塩□□□

(225)・(29)・3 081 HI16 *2
上下折レ、左右割レ。

7. 矢作宮門圓一枚

116・20・3 032 HJ17 *2

2. □養宿祢道代給□五
〔紐カ〕

太寶元年十一月□□

(126)・(21)・3 065 HJ16 *1
四方二次的整形。

8. 道守御門

〔丈カ〕

□マ麻呂

138・29・4 033 HJ16 *2

3. 石川宮出椽一石
糸一斤
布一常

大寶二年八月十三日

書吏進大初位下□
(230)・34・3 019 HJ15 *1
下折レ。

9. マ皇子宮遣□

091 HI16 *2

10. 皇太妃宮職 解 □

〔持人秦万呂カ〕

門□□□□□

太寶□

(174)・(29)・4 019 HI15 *2
下二次的切断、左右二次的整形。

4. 石川□

太寶□

(36)・(24)・4 019 HJ16 *2
下折レ、左二次的整形。

11 〔太妃宮職解カ〕
□□□□□□□□

・ □□□□□□□□ 太寶二年□
〔門カ〕

(200)・(17)・5 081 HJ16
下折レ、右割レ。

12 皇太妃□

(52)・(5)・3 081 HJ16
下折レ、左右割レ。

13 画工司解今加画師十人分布七端 □□四両 并三品
由布三束

・ 受志太連五百瀬 佐伯門
〔中務省□出〕 今持退人使部和尔積木万呂
〔移カ〕
295・29・5 011 HI15 *12

14 内蔵寮解 門傍 紵二□
銀五両二文布三尋分
布十一端

・ 羅二匹直 銀十一両分糸廿二□
〔中務省□〕 蔵忌寸相茂 ○佐伯門
(155+102)・21・5 011 HJ16 *3

15 〔門傍カ〕
□□

(41)・(5)・2 051 HJ16
四方二次的整形。

16 内蔵寮解 門□

・ 五斤出猪 □□
〔使カ〕

(130)・36・2 051 HJ16 *3
下折レ、右下斜メニ二次的整形。

17 宮内省移 価糸四□

・ 太寶二年八月五日少□
〔中務省移□□□宜耳〕
〔勘カ〕

(270)・55・3 051 HJ15・16 *12
左下二次的整形、右下斜メニ二次的整形。

18 〔大膳職解 以カ〕
□□□□□□□□

・ 一人□□□□□□□□
(155)・(120)・3 051 HJ17
下・左右二次的整形。

19 〔膳職カ〕
□□□□□□□□

・ □□□□□□□□ 〔日少属カ〕
(125)・(5)・6 081 HJ16 *15
上下折レ、左右割レ。

20 〔職解 以カ〕
□□□□□□□□

・ 少属進大初位□
(79)・(5)・4 081 HJ16 *15
上折レ、下二次的整形、左右割レ。

21・白錦殿作司□

・屋部門持□日□□

(139)・24・3 019 HJ16 *3
下折↘。

22・□使□請□

〔部カ〕
〔籠カ〕
□□
〔中務省移〕

(145)・(21)・7 019 HJ16 *3
上二次的切斷、左二次的整形。

23・練遣絶二匹 出人榎本連安比止

蝮王山ア二門

□日 □□位下大庭造男掾

0
〔中務省〕
(212)・33・5 015 HI16 *4
上折↘、左上割↘。

24・□

□□□□
□門
〔伯カ〕

持出人草原首廣末呂

〔十二日カ〕
□□□□□□
〔宜カ〕
〔中務省移如令勘□耳〕

(317)・(26)・2 019 HI16 *12
上折↘、左二次的整形、右上割↘。

25・百八十一斤沽□〔遣カ〕

・□□□□□□□□
〔追従八位カ〕

(162)・(21)・2 059 HJ16
上下折↘、左右割↘、左上斜メ
ニ二次的整形。

26・□□□□□□□□

・□□□□太寶二年□□
〔九カ〕

(117)・(5)・2 081 HJ16
下折↘、左右割↘。

27 太寶□〔元カ〕

(100)・(14)・7 081 HI16
上二次的整形、下折↘、左右割↘。

28 〔木カ〕
□□ア門 猪使門一
□□甘門

(133)・27・4 019 HL20 *4
上折↘。

29 山部門三

(137)・28・3 019 HJ16 *4
下二次的切斷。

30 「山部宮門五

091 HI16 *4

37 大伴マ安□

欠十月
十一月

□暑

△□平

(49)・(22)・3 081 HJ16 *4
上二次的切斷、下折レ、左右割レ。
下二次的切斷、左右割レ。

31 山部門

32 県犬甘小宮門

091 HI17

38 〇但波少初位佐伯連法師
桑田 (ママ)

〇但波

206・23・4 011 HJ16 *5

33 「犬カ」
□甘門□

(61)・(12)・6 065 HJ16
上折レ、下二次的整形、左右割レ。

39 「進少初位上佐伯□

(68)・(16)・2 081 HK16
上下折レ、左右割レ。

34 □蝮宮門□

091 HI16 *4

40 □伯宿祢黒麻呂□□

(163)・19・3 019 HQ18
上折レ。

35 「十一月カ」
□□□廿三日

大伴使日廿二 官四日

「波多カ」 八□使廿一日
□□官六日

并廿七日 180・24・3 011 HJ16 *15

41 八月一日 佐伯造正月 山

山マ造万呂 同

36 □□□□
「大伴マカ」

(95)・(13)・3 081 HJ15
上下折レ、左割レ。

(161)・(21)・2 019 HJ16 *4
下折レ、左二次的整形。右边上下一カ所ニ切り込みアリ。

42 本位進大老 今追従八位下

山ア宿祢乎夜ア冠

215・28・6 011 HI17 *5
上半部ハ表裏ニ割ケ、側面ニ穿孔ノ存シタ可能性アリ。

47 海犬甘連□□

(65)・(5)・4 081 HJ16
上下折レ、左右割レ。

48 「犬片カ」
□□甘足□□戸

(142)・13・4 019 HJ17
上折レ。

43 □□

「山カ」
□□マ□□万呂

□□「□□万」
□□白上マ連安万呂

49 「五百木マ連方曾

(228)・(7)・5 081 HI16 *13
上下折レ、左右割レ。

□□
□□□□

(333)・(17)・5 081 HI17 *13・14
上二次的切断、下折レ、左右割レ。

50 五百木マ連

091 HI16 *5

44 「(二重合点)
ノ海犬甘連□人

(147)・(12)・3 051 HI17 *5
左割レ、右下二次的整形。

51 五百木マ
□□□□ア□□□

(107)・(19)・2 081 HJ16
下折レ、左右割レ。裏面上部削リ取り。

45 海犬甘足□

□□ (117)・(10)・4 081 HI16
上下折レ、左割レ。

52 建ア君弘□ 「良カ」

(98)・(17)・4 081 HI17
下折レ、左右割レ。

53 位上玉手臣

091 HI16 *5

46 海犬甘□ (剥離)

(175)・23・11 015 HI17 *5
下二次的切断。

54 的臣□□ 「多カ」

091 HI16 *5

55 . 日向久湯評人□ (剥離)

漆ア佐俾支治奉牛卅

又別平群□表支□

故是以 皆者亡賜而 偲 (161)・58・6 019 HG14 *6

下二次的切斷。

56 上毛五月逃□干三

下総三月□干三

〔直カ〕

247・19・4 011 HI16 *6

57 □逃四病□

〔六カ〕

091 HJ16 *6

58 . 上尺依 物□ 干三 □干丹

大里 行真 拾

物宮 大宅与

下荒人 色男 无忍 干二

守佐 又私荒人 犬子

嶋年 干二 神

318・47・5 011 HJ16 *13

59 . 人□□□□

〔直カ〕

□□□□ 丁 蘇

(72)・(16)・4 081 HK15
上下折レ、左右割レ。

60 . □尔

□ 三人

〔斗カ〕

(55)・(22)・4 081 HK15
上折レ、左・右下割レ。

61 . □□□□

〔奉カ〕

□月十八日

(139)・30・5 019 HI16 *12
下折レ、裏面上部削リ取り。

62 三月四日□時□□

〔申カ〕

□

159・12・6 011 HK16 *6

63 . □□□□

〔八月カ〕

□□□□

(110)・(5)・3 081 HJ15
上折レ、下二次的整形、左右割レ。

64 . □意□□□□

□□□□□□□□□□
〔万カ〕

142・(23)・5 081 HI15 *9
左割レ。

65 □槽一具甲□^{〔牀カ〕}二具斧一具柳

(159)・(29)・2 081 HI16 *7
上折レ、左割レ。

66 鞞負□

091 HI16 *6

67 舍人

(34)・(17)・2 081 HJ16
上下折レ、左割レ。

68 □位□戸造安万呂坊

(139)・(17)・2 059 HI16 *7
上二次的切断、左下二次的整形、左上・右割レ。

69 □京輕坊

091 HI16 *7

70 ^{〔進カ〕}少初位上間○人
□廣足○

(82)・33・4 019 HJ16 *13
上二次的切断。

71 進廣肆 進少初□

(90)・20・4 019 HI15 *7
下折レ。

72 □□位下□□

(71)・(28)・4 081 HI16
上二次的切断、下折レ、左右割レ。表面上半部削り取り。

73 □私マ□^{〔時カ〕}□

(58)・(6)・4 081 HJ17
上下折レ、左右割レ。

74 逆 逆 逆 逆

(95)・60・5 081 HJ17 *13
左右割レ。

75 □上秦連五

(54)・(13)・2 081 HI15
上下折レ、左右割レ。

76 ^{〔丸カ〕}子部 □^{〔午カ〕}□□

(125)・(8)・6 081 HJ17
上下折レ、左右割レ。

77 刑部

(36)・(5)・5 081 HJ16
下折レ、左右割レ。

78 委文

(41)・(11)・2 081 HK17
下折レ、左右割レ。

79 殿連大

(84)・35・3 081 HI15
上二次的切断、下折レ。

80 〔史カ〕
廣田

091 HI15

81 五口 社ア

(88)・35・4 019 HK17
上二次的切断。

82 恵得

(115)・37・3 019 HI17
上折レ。上半部削リ取り。

83 伎 采

(110)・(18)・8 081 HK17
上下折レ、左右割レ、左右下二次的整形。

84

物々 波 納於〔本カ〕

子年 〔六カ〕

〔退カ〕

(40)・(178)・3 081 HI16 *7
上折レ、左右割レ。

85

少属 帳 〔具カ〕 妃宮

品 大 瓢少 大

(42)・(68)・5 081 HL16 *7
上二次的切断、左上・右割レ。

86

銀 天玉 〔四カ〕

佐伯 日分酒

(45)・(88)・4 081 HI15 *6
上下二次的切断、左右割レ。裏面ニ墨線アリ。

108 道衛衛衛門府衛衛門府

衛衛衛門府 府府 191・25・6 011 HJ16 *15

114 □□
□□_[カ]
母

(80)・99・14 011 HJ16 *12
右二次的整形。

109 謹 白 白

乃使万□□□□_[地カ]
(118)・(22)・4 081 HI15
上二次的切断、下折レ、右割レ。

115 □□
守守守守
郡□□他池

(126)・90・4 019 HK17
上二次的切断。表・裏共ニ削
リ残シアリ。

110 而時習

091 HL20 *10

116 □□
騎 □□

(49)・(17)・2 081 HI16
上下折レ、左右割レ。

111 大兔 □免 □見 □何 何僧有 有 □
□ 已地

(135)・10・4 019 HI15 *10
下折レ。

117 騎

(61)・(25)・2 081 HI16 *10
上下折レ、左右割レ。

112 弟弟音音□□□□□□□□

(184)・(15)・4 081 HJ16
上折レ、左割レ。

118 堤道
前□

178・(30)・5 081 HK17
下二次的切断、左割レ。

113 □□□□
□□□□_[背背カ]

□□□□_[鳴カ]
(90)・(6)・5 081 HJ15
上下折レ、左右割レ。

119 道□

(99)・(11)・2 081 HI16
上下折レ、左右割レ。

120 □〔道カ〕

(50)・(16)・3 081 HL16
上下折レ、右割レ。

土坑SK50III

127 □〔府物カ〕
□出 □□

(116)・36・4 019 AH81 *11
下折レ。

121 朔朔

(55)・16・(4) 081 HJ16
上下折レ。裏面剥離。

122 □□朝

(91)・(16)・4 081 HL12
下折レ、左右割レ。

128

□□□□□□二斗米二斗
□□マ稻手養物米三斗干秦一古□
〔倭カ〕 〔糯カ〕

(191)・(23)・3 081 AF80 *11
上折レ、下二次的切断、右割レ。

123 □之之

(55)・(13)・2 081 HI15
上折レ、左右割レ。

129

□□□□
□□三□
〔酒斗カ〕

(152)・22・5 019 AE80
下折レ。

124 □〔人カ〕
□人

(85)・(19)・2 081 HI16
上二次的切断、下折レ、左右割レ。

125 代

(93)・(9)・4 081 HJ15
上下折レ、右割レ。

130

□呂 久米末呂二□
〔口カ〕

(144)・20・5 019 AF81
上折レ。

126 方

(20)・(48)・5 081 HI17
上折レ、左右割レ。

131

□宇治マ忍□

(160)・15・5 081 AF81
上下折レ。

132 □ 染廣山

(72)・(5)・6 081 AF81
上下折レ、左右割レ。

139 [一白カ]
□ □ □

(60)・(16)・2 081 AF80
上折レ、左割レ。

133 麻呂

(31)・20・3 081 AF81
上下二次的切断カ。

140 □ 百

091 AF81

134 □ 存

(9)・(65)・2 081 AE80
上下折レ、左右割レ。

141 □ □ 大 □

091 AF80

135 □ □ 子 □ □

(59)・(7)・4 081 AF81
上折レ、下二次的整形、左右割レ。

142 鮑三ツ良 □

(120)・22・4 019 AG81 *11
下折レ。下半部剥離甚ダシ。

136 持 □ □

(69)・(14)・3 081 AF81
下折レ、左右割レ。

143 [物カ] □ 部 □ 甘横圓二 □ [具カ]

(128)・20・3 039 AE80 *11
下二次的切断。

137 □ □ □ □ 等 □ □

(42)・(14)・3 081 AE81
上下折レ、左右割レ。

144 □ 阿麻卅二

(88)・(23)・3 081 AH81 *11
上下二次的切断、右割レ。右上部削リ取り。

138 □ □ 五

(47)・14・2 019 AF80
上折レ。

145 弓矢

48・16・2 022 AH81 *11

146 □ □ □ 郡
105・18・4 011 AE80
左右中央部二切り込みヲ
入レ二次的ニ切断。

153 □ □
東西溝SD五〇四
(88)・(9)・7 081 AM77
上下折レ、左右割レ。

147 □ 郡
(71)・26・5 081 AH81
上下折レ。

中世堆積層

148 □ 中 □
(54)・(8)・3 081 AE80
上下折レ、左右割レ。

154 ・ 恐 □ □
安曇牛 六月廿八日 (199)・23・5 081 AI83 *11
下折レ、左上・右下割レ。

149 ・ 白 次 児 光 光 光
□
(154)・9・4 019 AF81
下折レ。

155 四尺三寸 味人間王 141・12・4 033 AN78 *11

150 □ □ □ □ (文風カ)
(75)・(6)・3 081 AF81
上下折レ、左右割レ。

156 □ □ □ □ (伊世カ) (呂カ)
私造 □ 麻 □
(110)・(9)・5 081 AM77 *11
下折レ、左右割レ。

151 半伴 091 AF81

157 忌ア □ 万呂 98・(17)・4 032 HI11
右割レ。下ニ切り込み。

152 里 □ □ (里カ)
091 AH81

158 □ □ □ □ (嶋カ)
二人
(100)・(6)・5 081 AM77
上下折レ、左右割レ。

159 年四月四日

(41)・(8)・4 081 AN78
上下折レ、右割レ。

160 年四月四日

(173)・(11)・6 081 AN78
上折レ、右割レ。

161 九月廿三日

(58)・(14)・3 081 AN75
下折レ、左右割レ。

162 〔三日カ〕

(123)・(9)・5 081 AN78
上折レ、左・右上割レ。

163 山各□九□

(85)・(13)・3 081 AN75
上下折レ、左右割レ。

第一一六次調査（5AMD地区）

南北溝SD一三四七A（堆積土）

164 諸岡五十戸 [田皮カ]
126・21・3 011 RL73 *16

南北溝SD一三四七A（埋立土）

170 徳 091 RL73
171 有 091 RL73

165 [戸カ]
(75)・19・4 081 RL73
上下折レ。

172 [亦評カ]
佐マ
俵
(130)・22・3 033 RL73 *16
上折レ、右下割レ。

166 日
(31)・(9)・5 081 RL73
上下二次的切断、左右割レ。

第一一〇次調査（5AMD地区）の訂正

167 [毛カ]
091 RL73

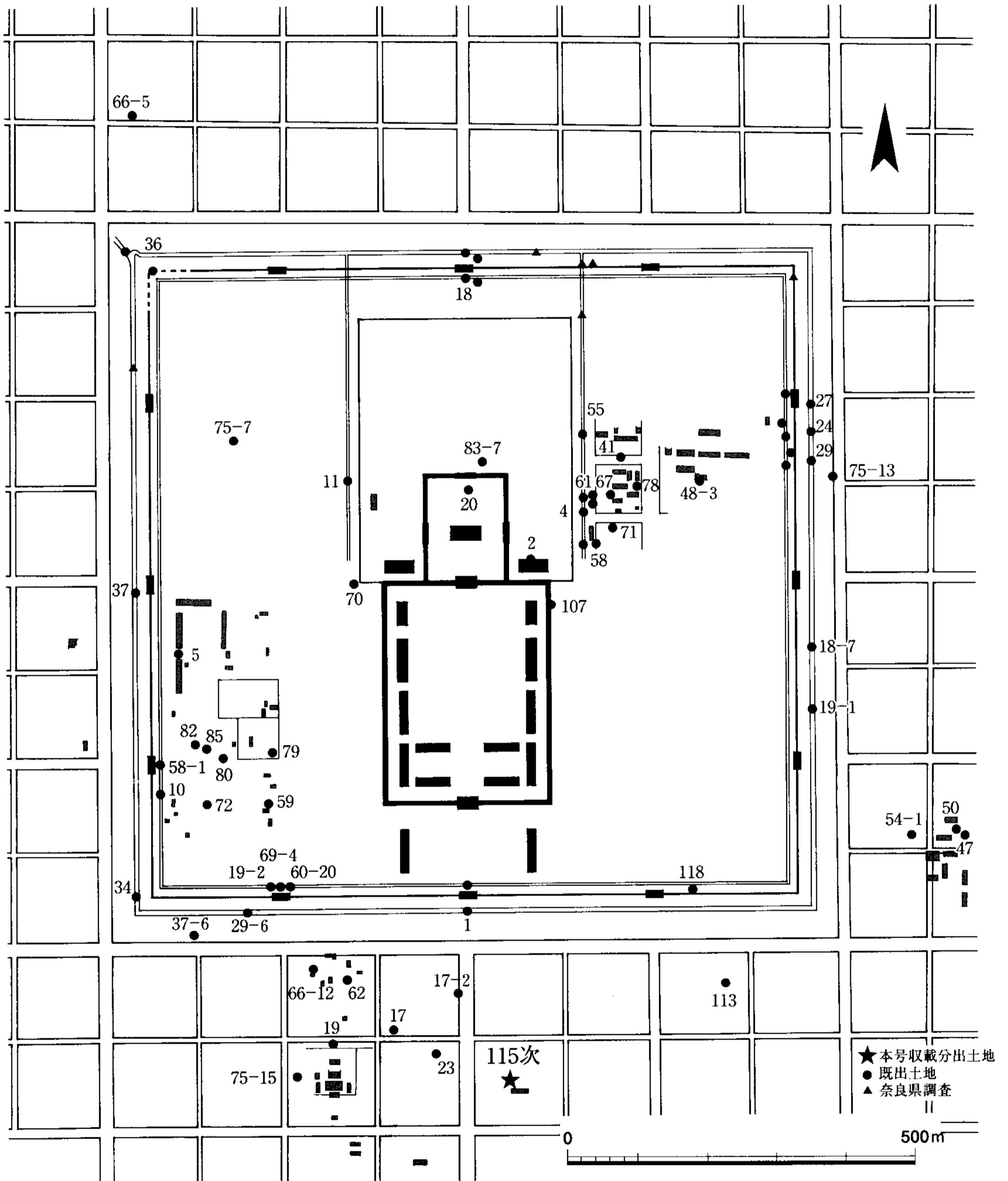
東西石組溝SD三八九六

173 [マ午カ]

(103+28)・25・4 032 RM81 *16

168 九
091 RL73

169 米
091 RL73



藤原宮木簡出土地 1 : 10000

二〇〇二年十一月二十五日 印刷
二〇〇二年十二月五日 発行

飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報 (六)

編集・発行

独立行政法人文化財研究所
奈良文化財研究所

〒六三〇―八五七七

奈良市二条町二丁目九―一

TEL 〇七四二(三四)三九三一

FAX 〇七四二(三〇)六八三〇